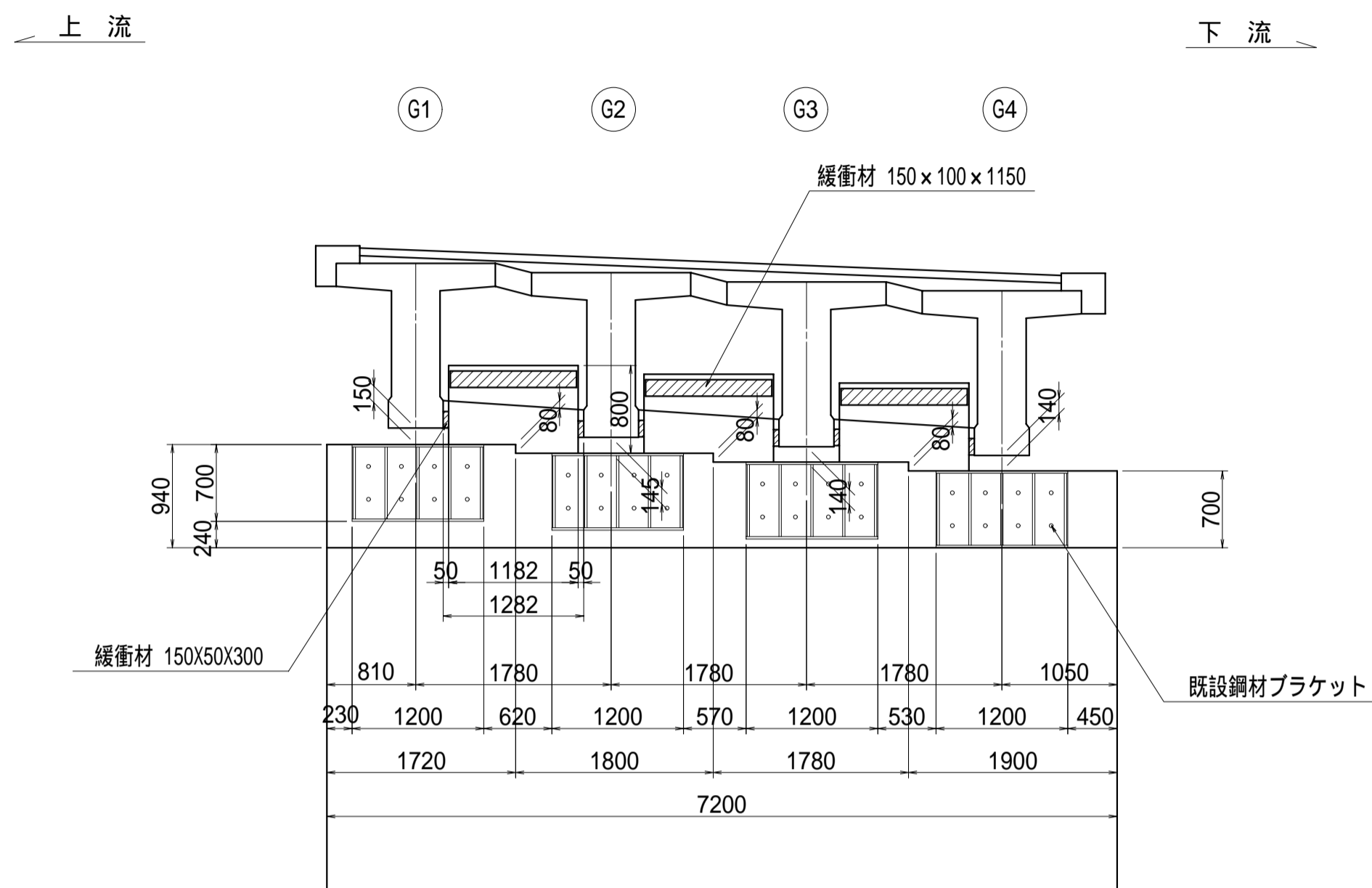
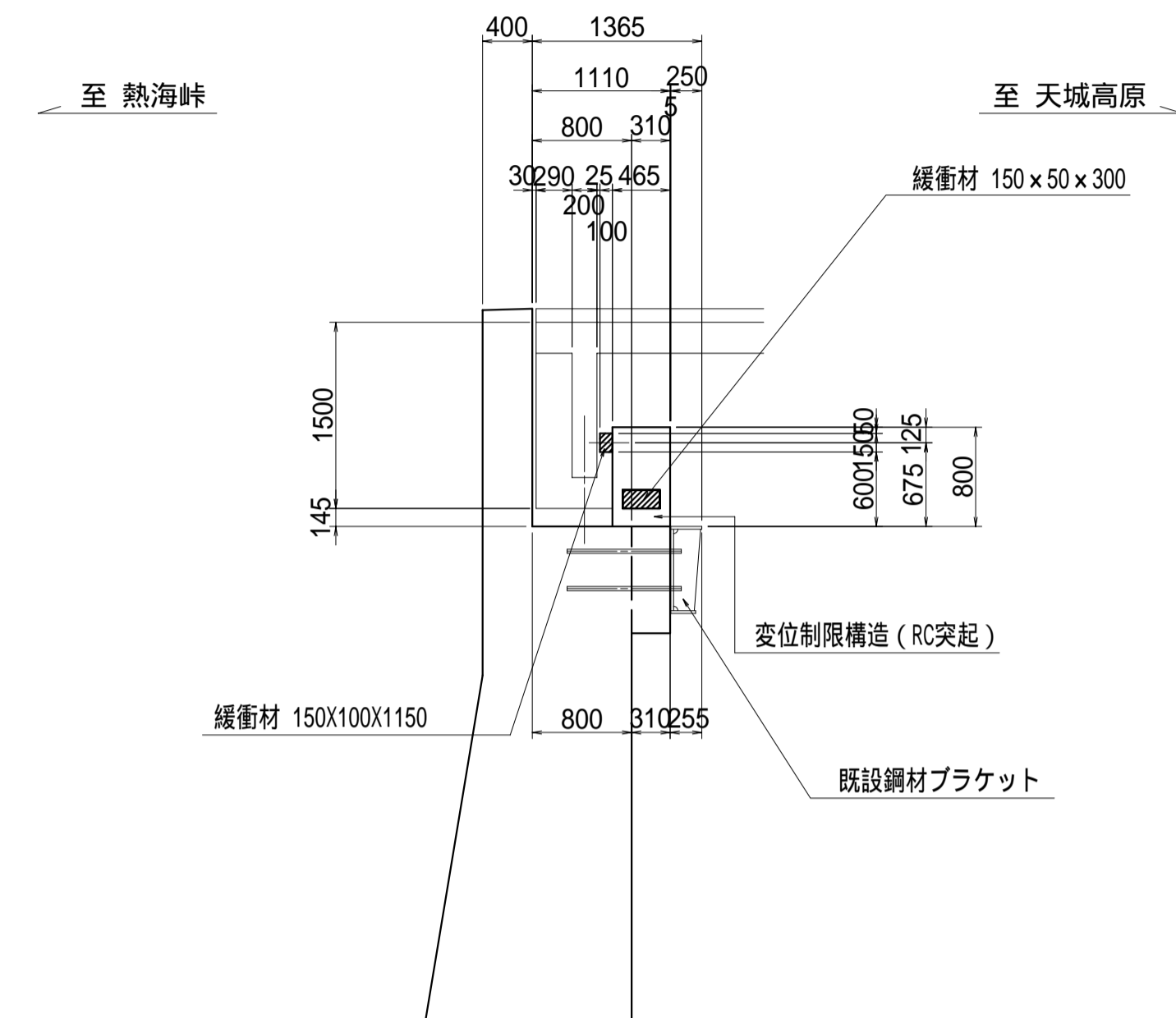


中伊豆橋A1橋台変位制限構造(RC突起)構造図 S=1:50

A - A (正面図)



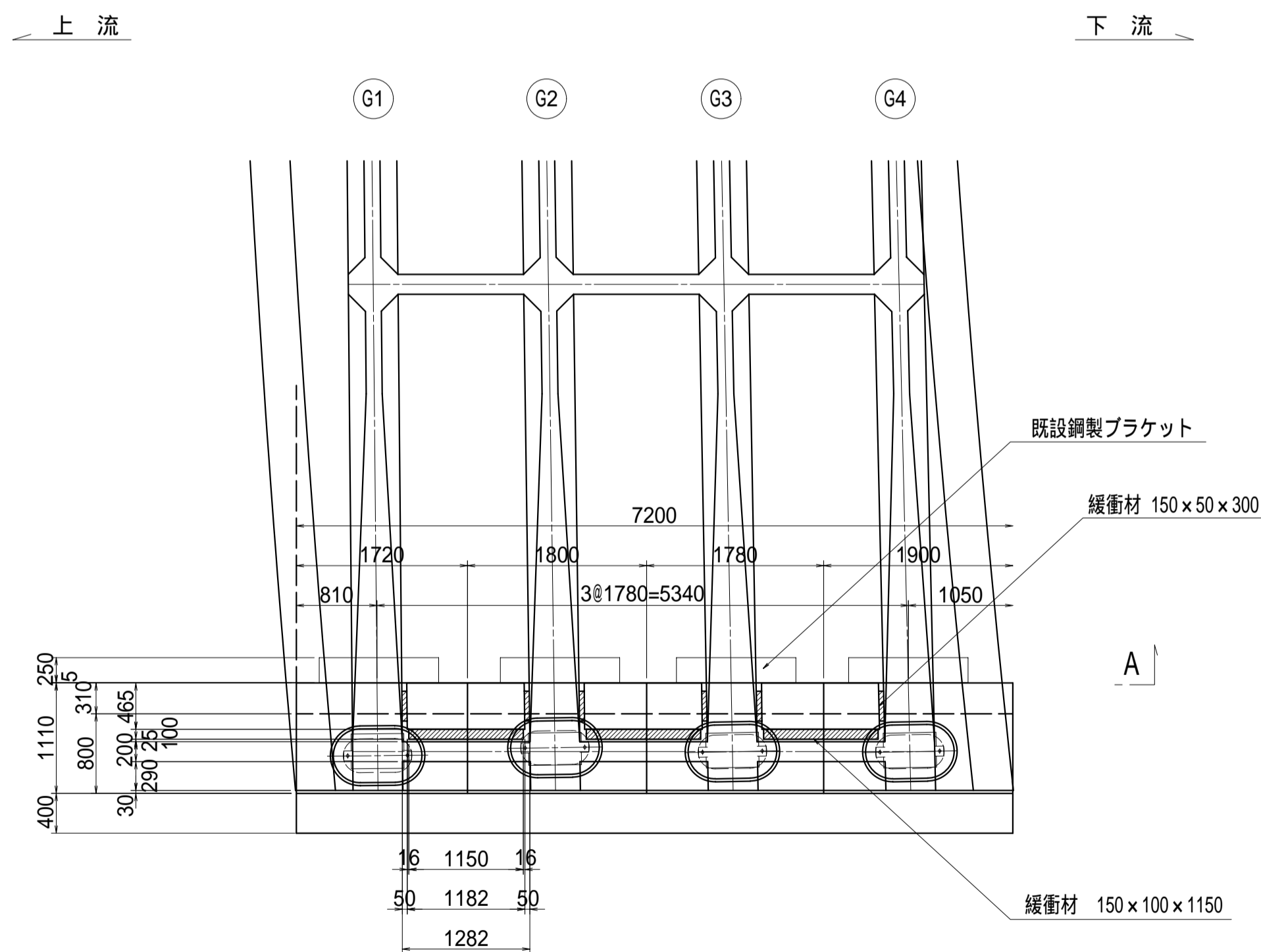
断面図



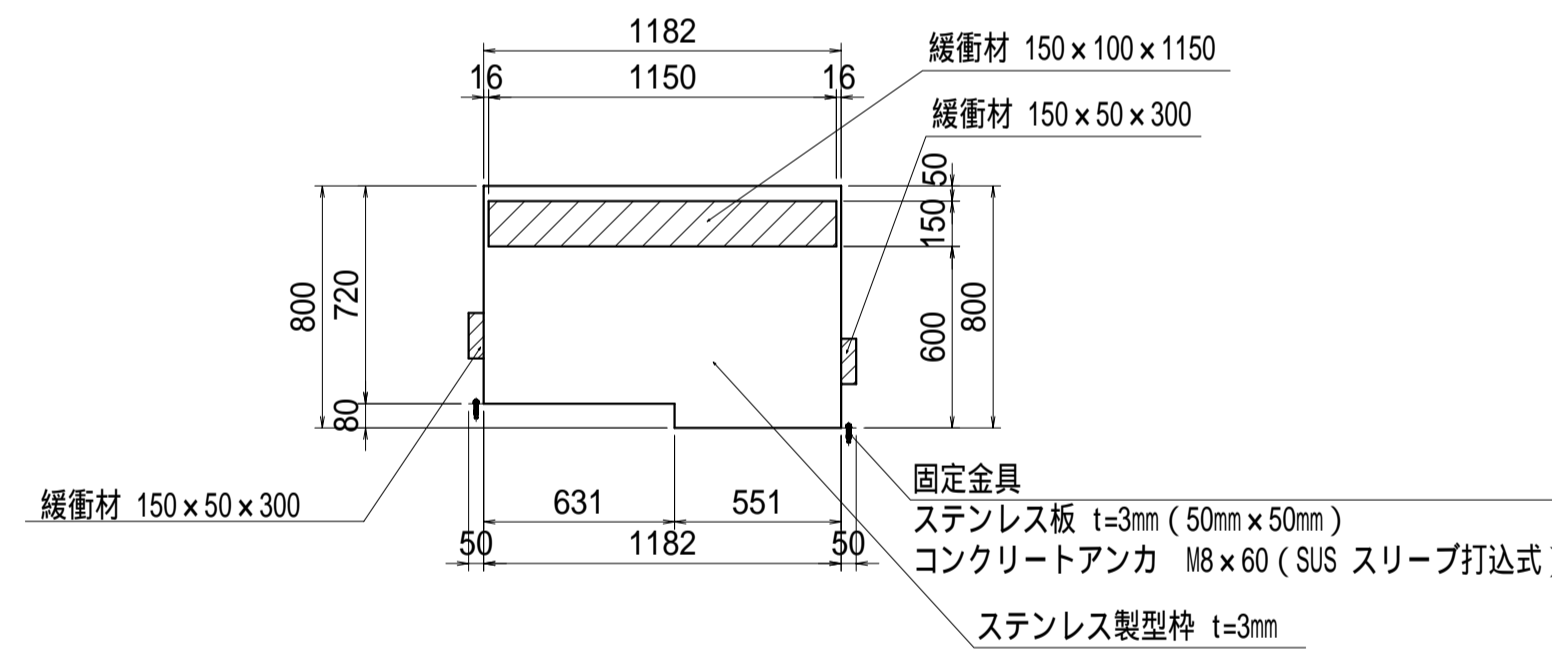
ステンレス製型枠(参考図) S=1:25

緩衝材 S=1:20

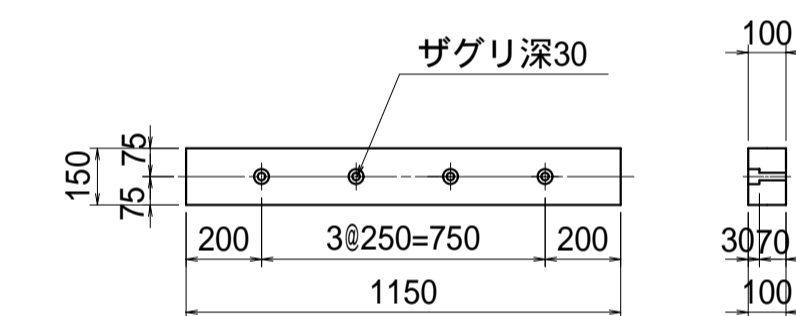
平面図



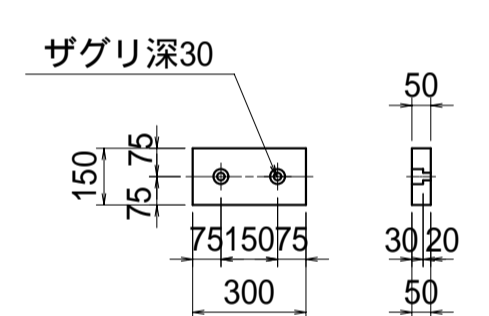
正面図



150 x 100 x 1150



150 x 50 x 300



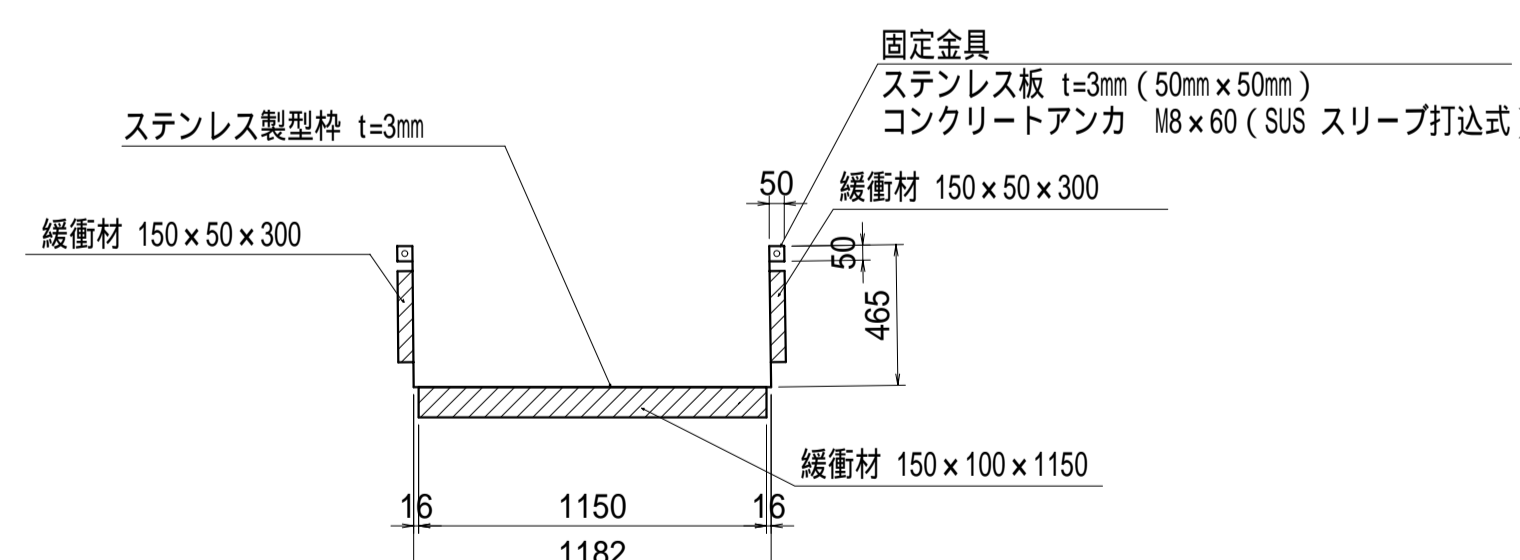
< RC突起 1箇所当たり >

緩衝材	1-150 x 100 x 1150 (クロロレン 硬度55 ± 5°)
ステンレス製型枠固定ボルト	4-M20 x 140 (SUS全ネジボルト)
六角ナット	8-M20 (1種 SUS)
座金	8-M20 (SUS)

< RC突起 1箇所当たり >

緩衝材	2-150 x 50 x 300 (クロロレン 硬度55 ± 5°)
ステンレス製型枠固定ボルト	4-M20 x 90 (SUS全ネジボルト)
六角ナット	8-M20 (1種 SUS)
座金	8-M20 (SUS)

平面図

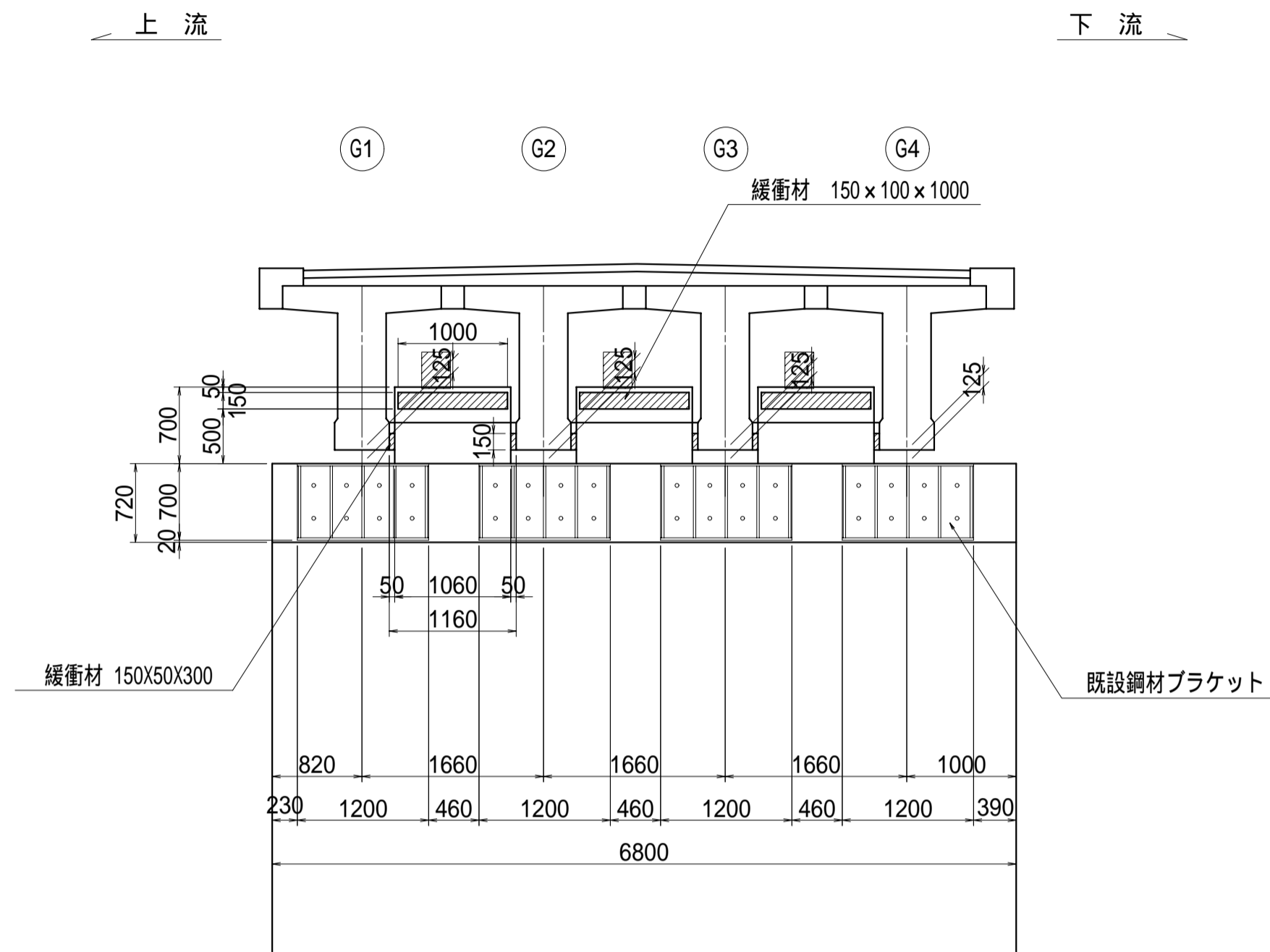


1. ステンレス製型枠と固定金具のステンレス板は溶接等で結合させること。
2. ステンレス製型枠には、緩衝材を固定するための孔明を行う。
3. 型枠の1辺は合板型枠を標準とする。
4. ステンレス製型枠を強固に固定するためにコンクリート打設前に浮き防止材等を使用すること。
5. ステンレス製型枠の寸法および緩衝材取り付け位置は現地計測を詳細に行った上で最終決定すること。

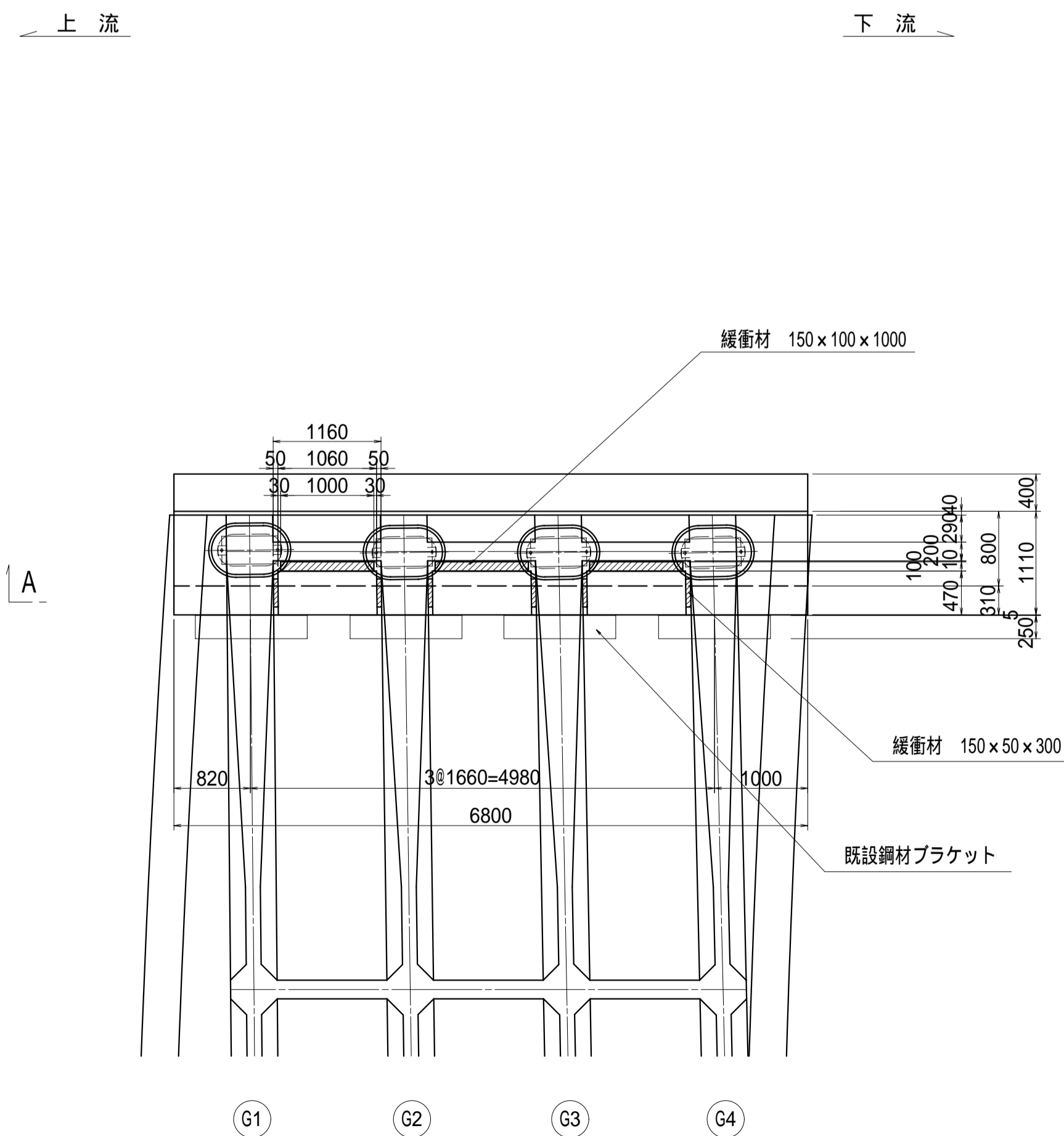
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋A1橋台変位制限構造 (RC突起)構造図
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 9
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋A2橋台変位制限構造(RC突起) 構造図 S=1:50

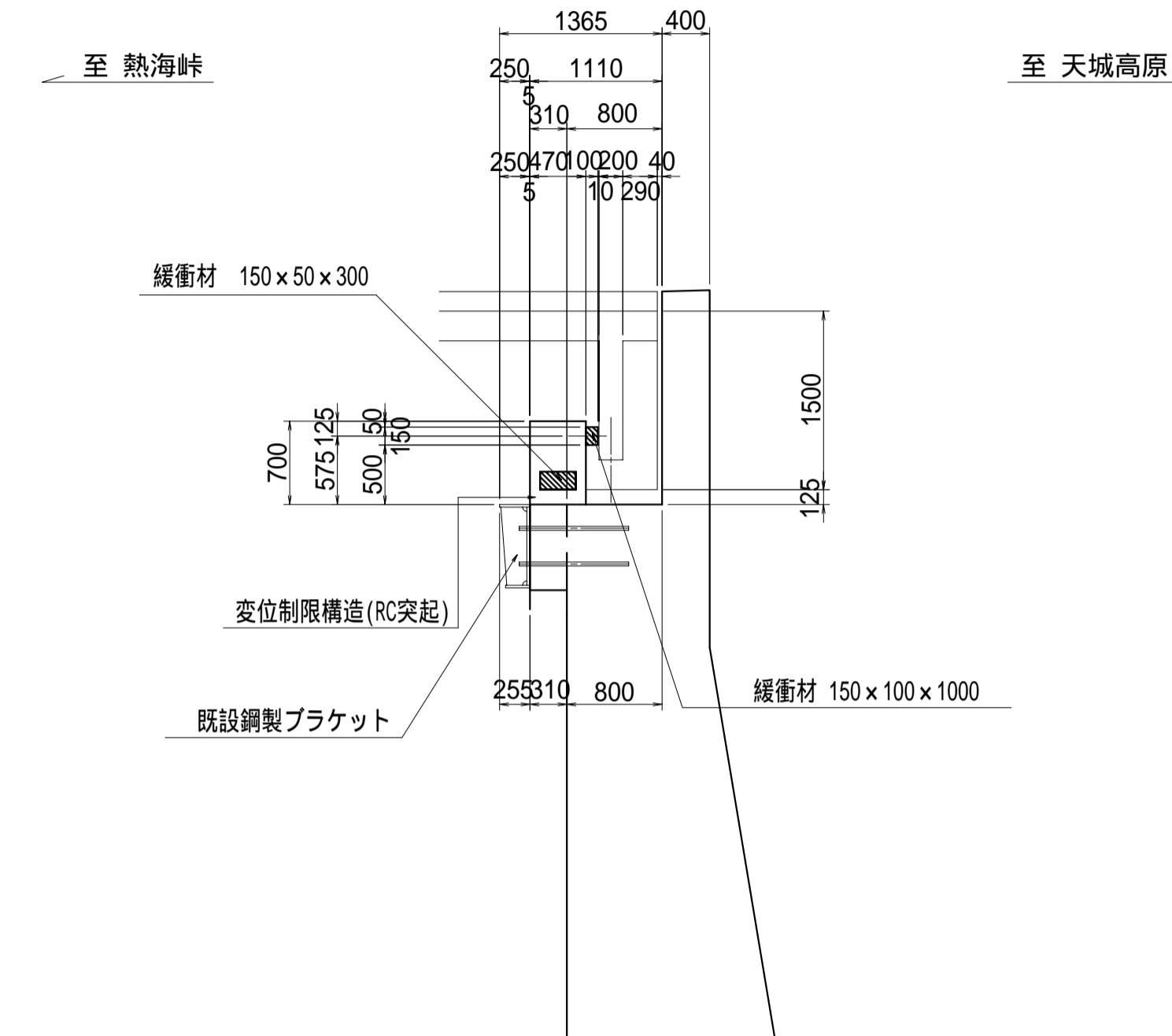
A - A (正面図)



平面図



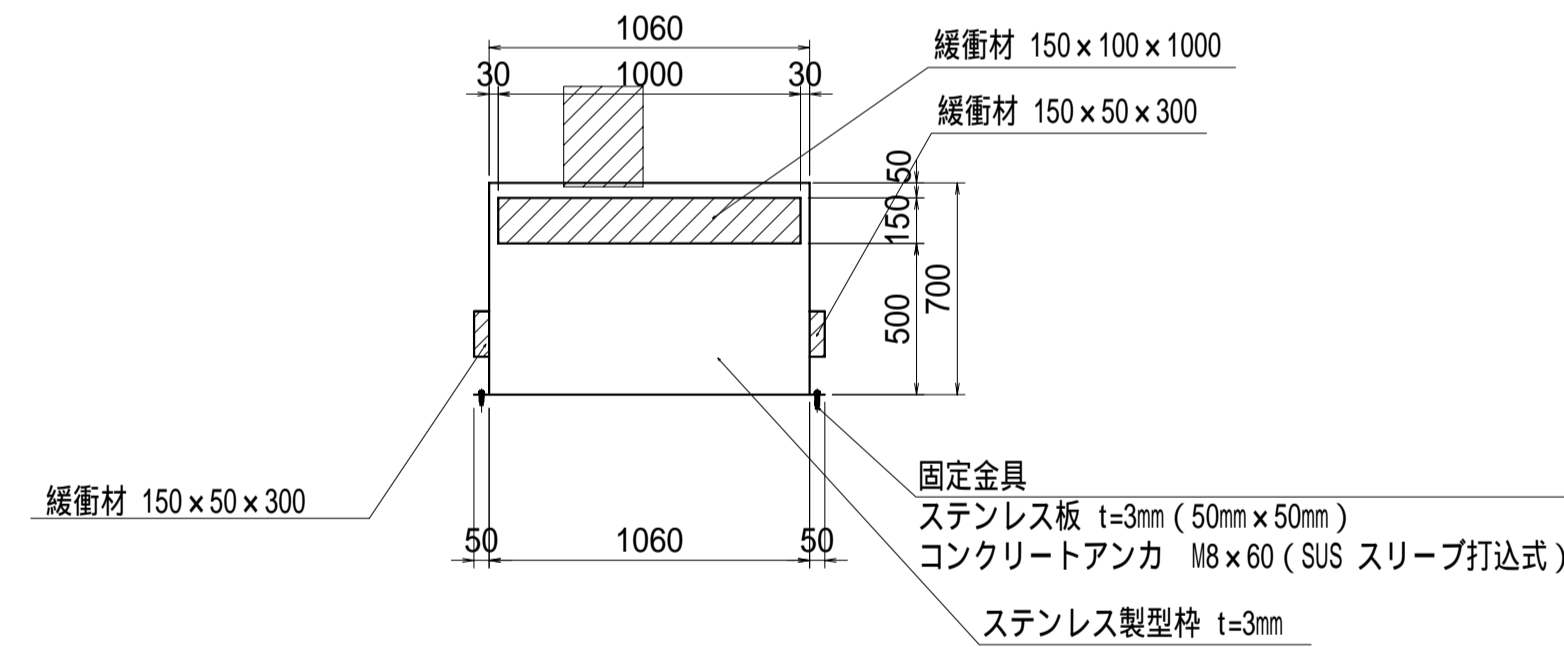
断面図



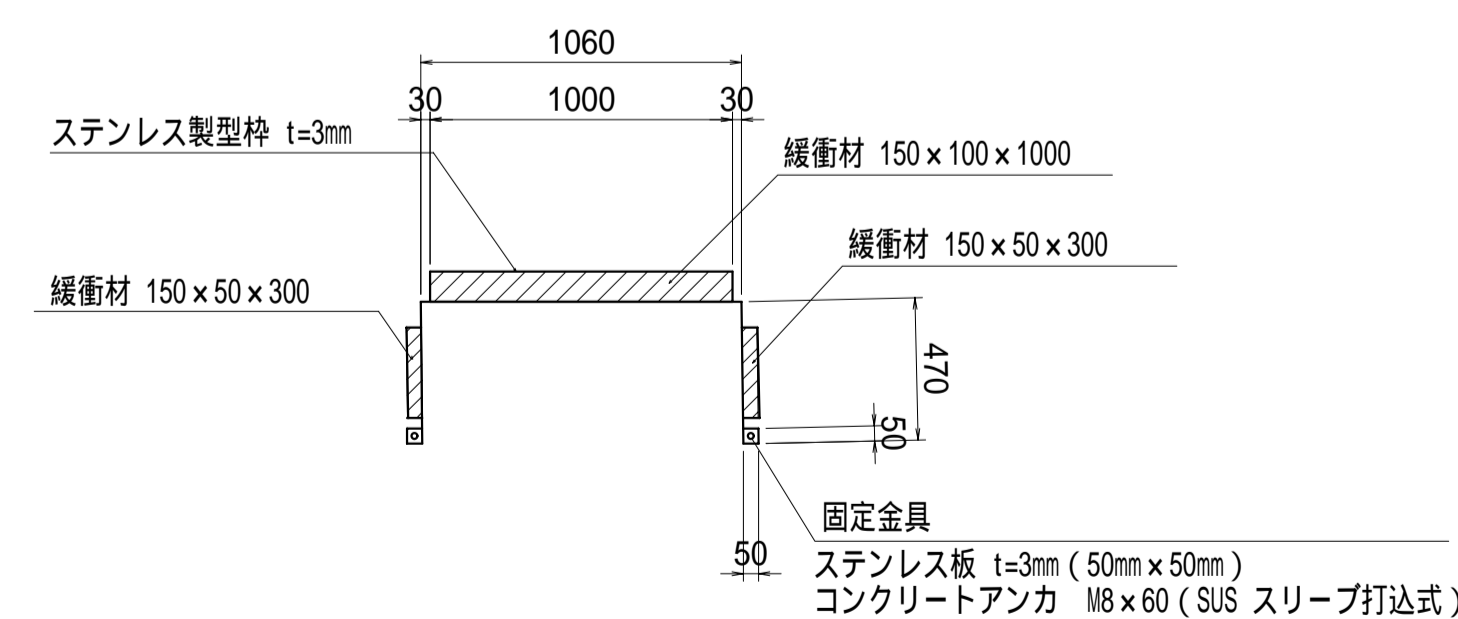
緩衝材 S=1:20

ステンレス製型枠(参考図) S=1:25

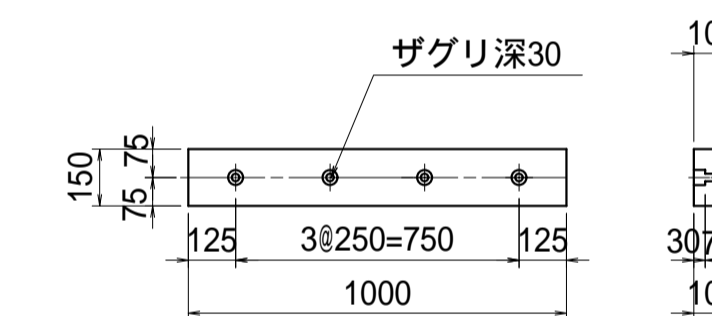
正面図



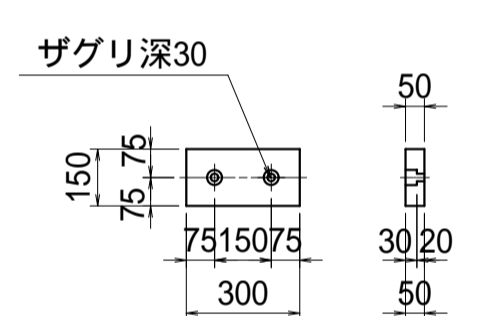
平面図



150 x 100 x 1000



150 x 50 x 300



<RC突起 1箇所当たり>

緩衝材 1-150 x 100 x 1000 (クロロレン 硬度55 ± 5°)
 ステンレス製型枠固定ボルト 4-M20 x 140 (SUS全ネジボルト)
 六角ナット 8-M20 (1種 SUS)
 座金 8-M20 (SUS)

<RC突起 1箇所当たり>

緩衝材 2-150 x 50 x 300 (クロロレン 硬度55 ± 5°)
 ステンレス製型枠固定ボルト 4-M20 x 90 (SUS全ネジボルト)
 六角ナット 8-M20 (1種 SUS)
 座金 8-M20 (SUS)

1. ステンレス製型枠と固定金具のステンレス板は溶接等で結合させること。
2. ステンレス製型枠には、緩衝材を固定するための孔明を行う。
3. 型枠の1辺は合板型枠を標準とする。
4. ステンレス製型枠を強固に固定するためにコンクリート打設前に浮き防止材等を使用すること。
5. ステンレス製型枠の寸法および緩衝材取り付け位置は現地計測を詳細に行った上で最終決定すること。

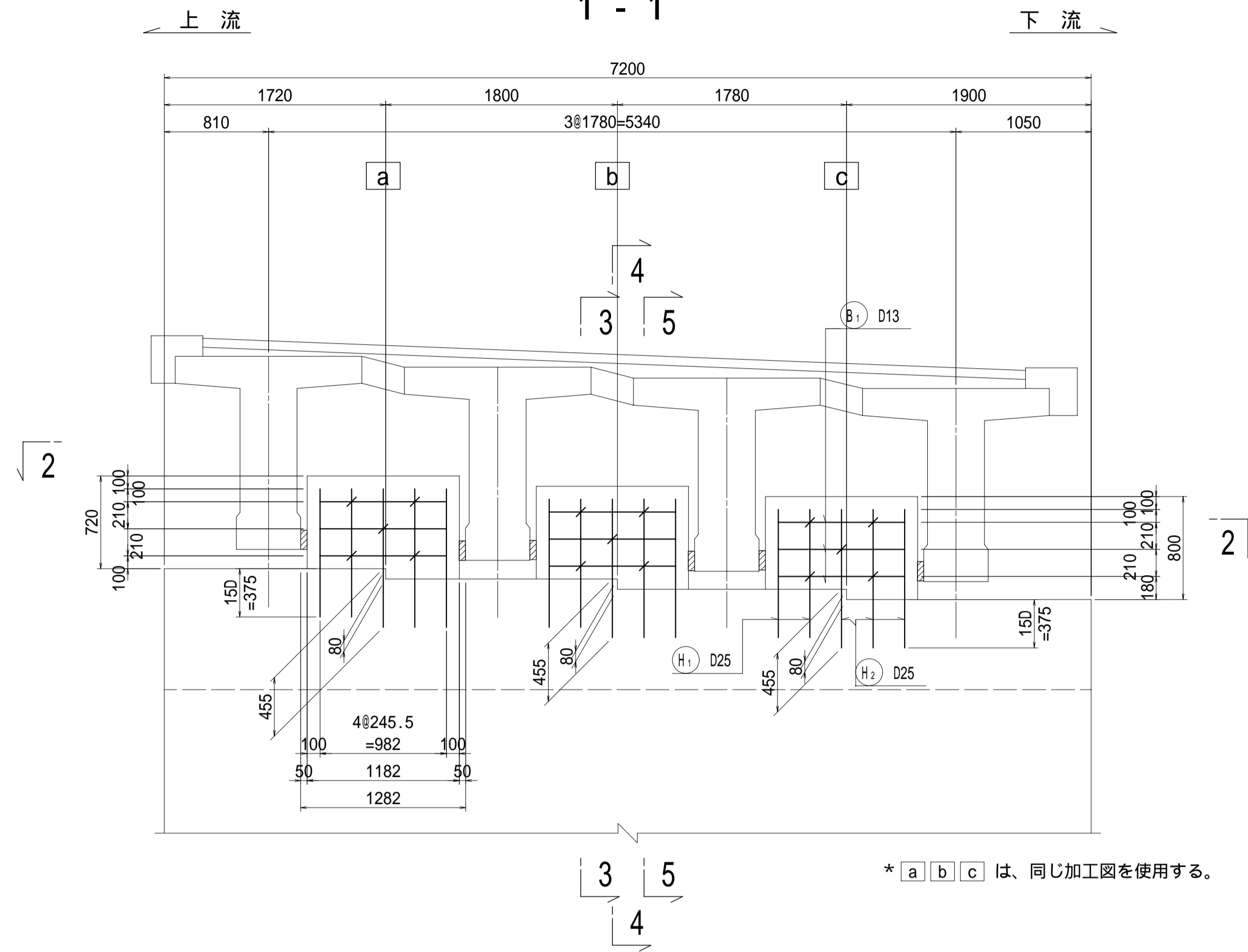
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋A2橋台変位制限構造 (RC突起)構造図
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 10
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋A1橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(1)

S = 1 : 30

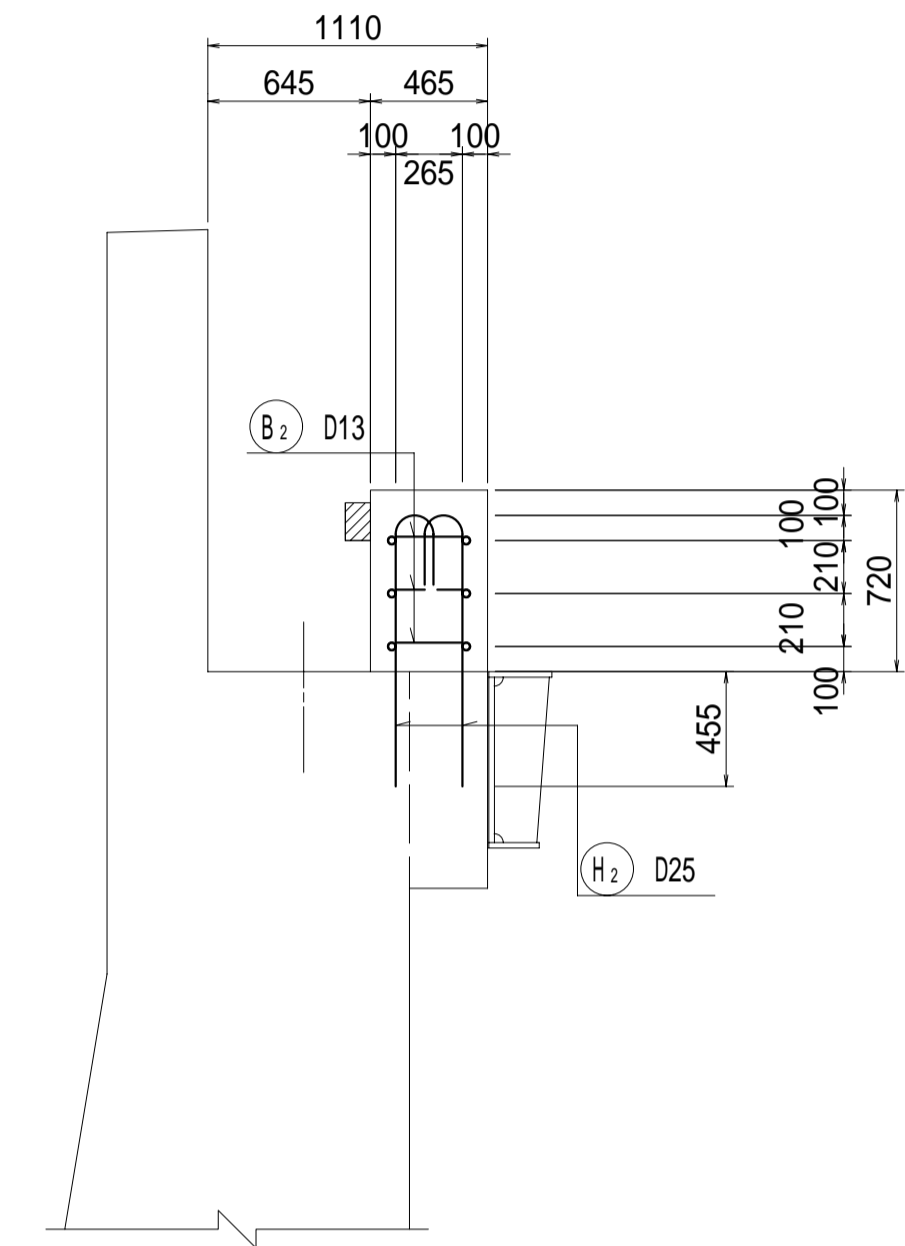
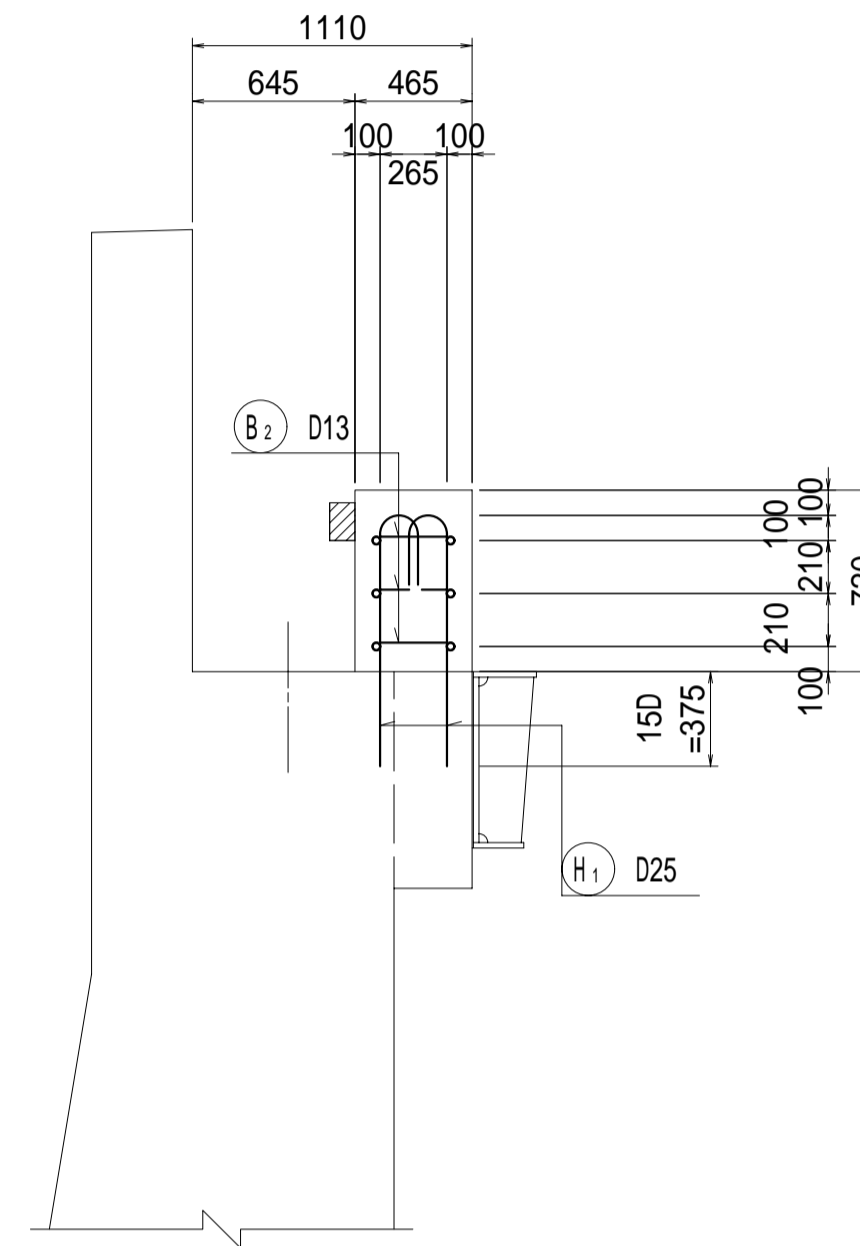
正面図
1 - 1

断面図



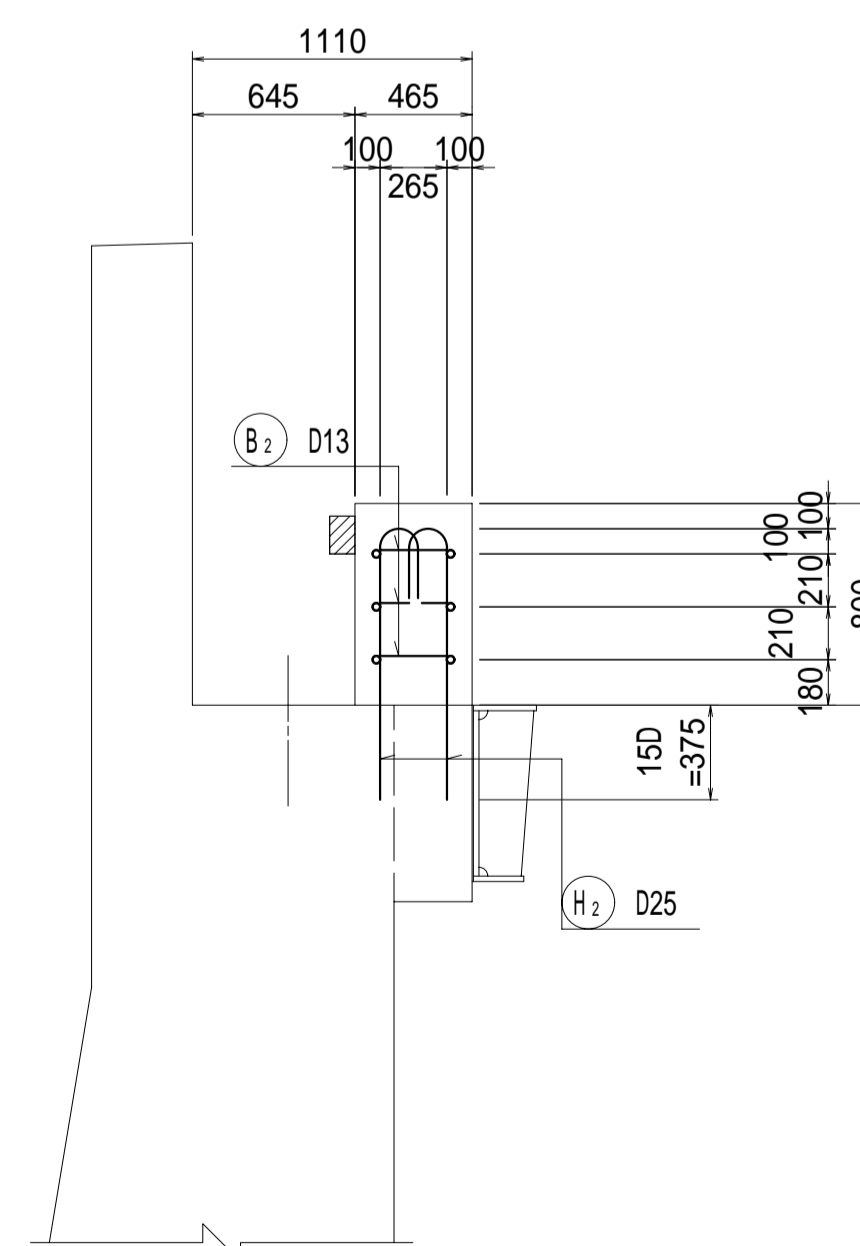
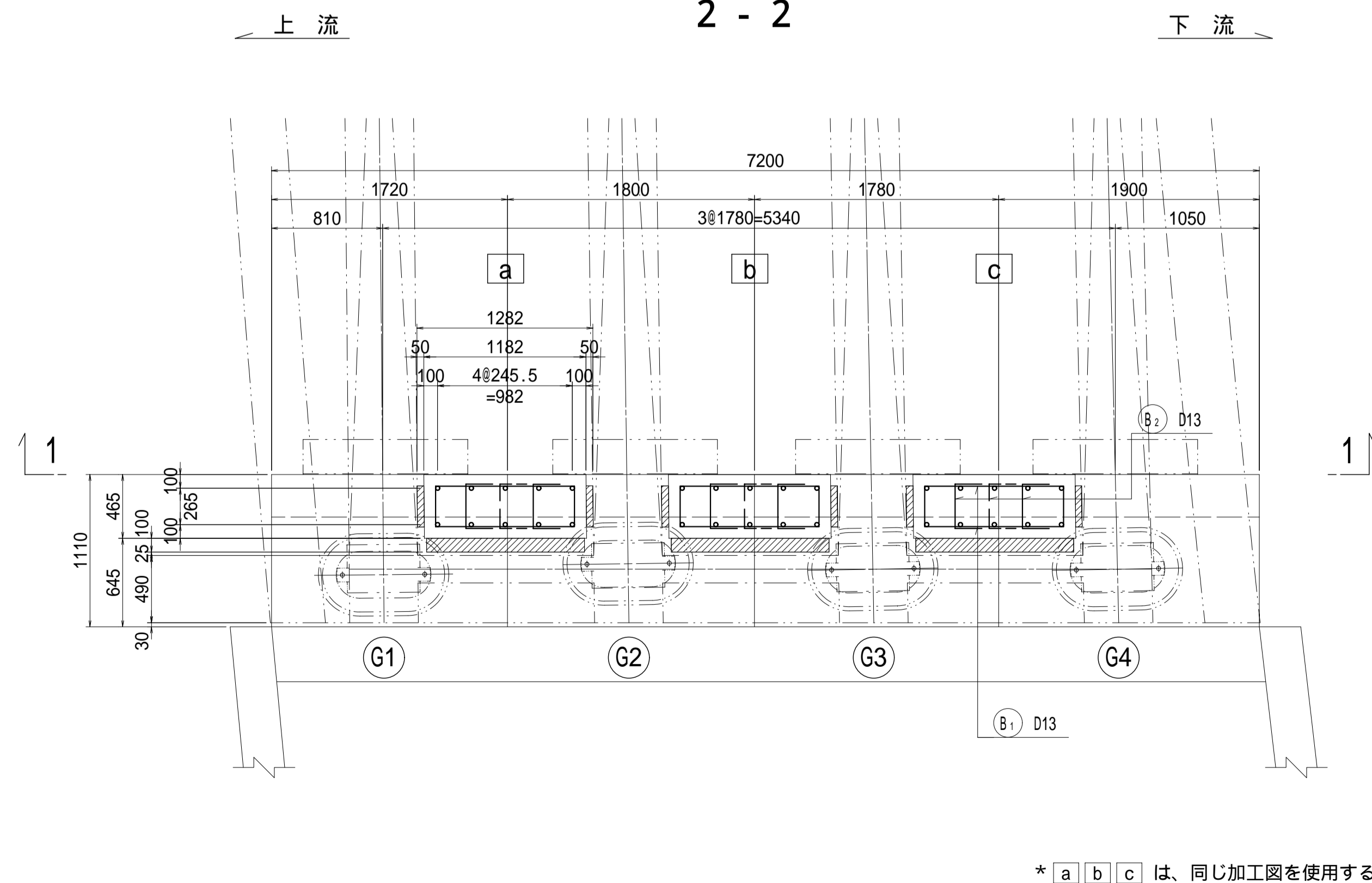
3 - 3

4 - 4



平面図
2 - 2

5 - 5



設計条件

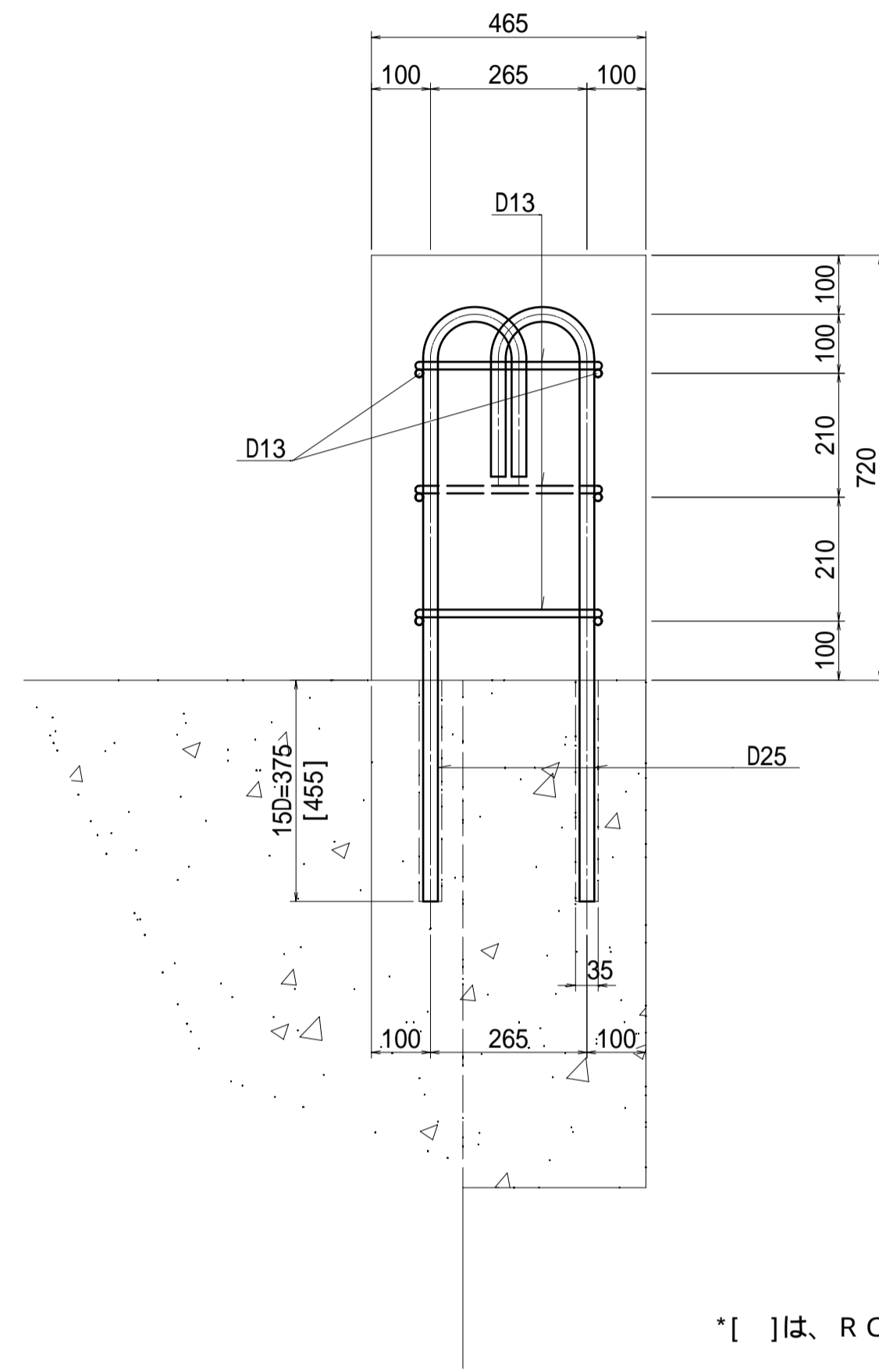
鉄筋	SD345
コンクリート	ck=24N/mm ²

[中伊豆橋]

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋A1橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(1)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 11
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

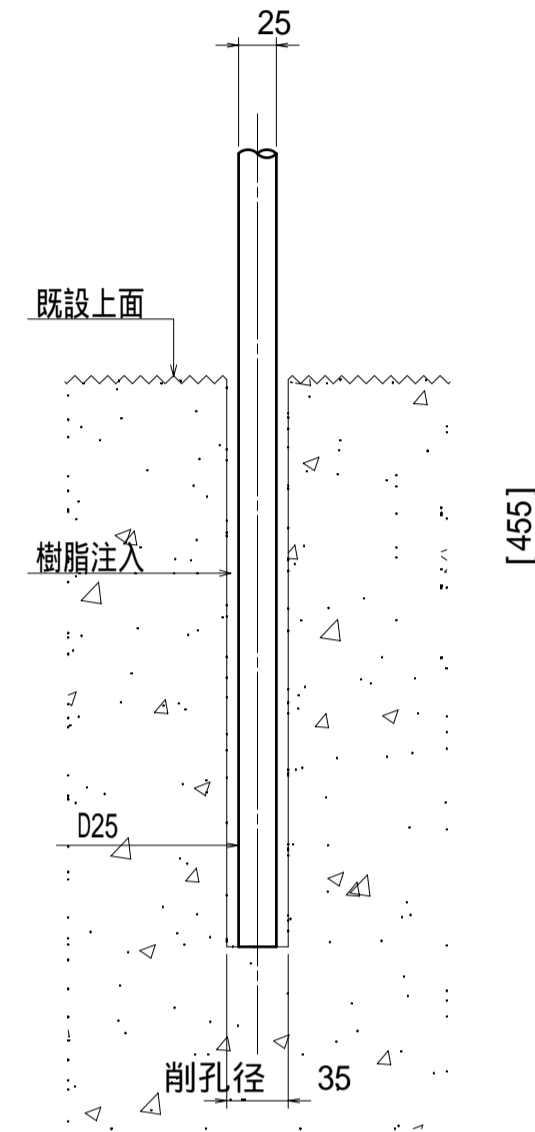
中伊豆橋A1橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(2) S = 1 : 30

アンカー工詳細図 S=1/10



* [] は、RC突起中央部のアンカー鉄筋を示す。

アンカー鉄筋取付詳細図 S=1/5

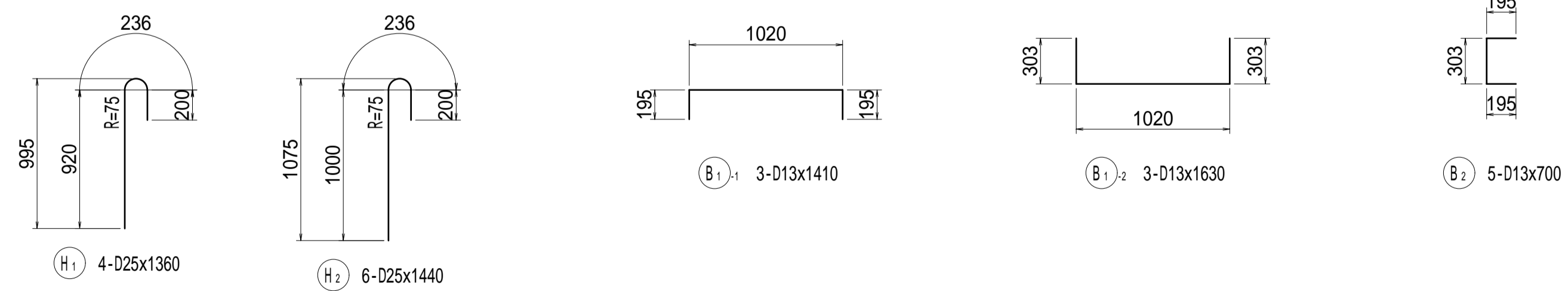


鉄筋表

RC突起 1ヶ所当り							
種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
H ₁	D25	1360	4	3.98	5.41	22	↑
2	//	1440	6	//	5.73	34	
						56 kg	
B ₁₋₁	D13	1410	3	0.995	1.40	4	┌
1-2	//	1630	3	//	1.62	5	
2	//	700	5	//	0.70	4	└
						13 kg	

A1橋台 1基当り							
<1ヶ所当り>				<A1橋台 1基当り>			
D25	56 kg	X 3	=	168 kg	SD345		
D13	13 kg	X 3	=	39 kg	SD345		
合計	69 kg	X 3	=	207 kg	SD345		
削孔工	35-0.375 m	4箇所	X 3	=	12箇所		
	35-0.455 m	6箇所	X 3	=	18箇所		

RC突起 1ヶ所当り



1. 既設鉄筋は、鉄筋探査する事。
2. 削孔時には、既設鉄筋を傷つけないように注意する事。
3. RC突起および緩衝材の形状は現地計測を詳細に行った上で最終決定する事。
4. RC突起施工前に支承垂鉛溶射工、モルタル取壊しを行う事。
5. アンカー筋の埋込み長は15D以上とする事。
(D: アンカー筋径)

設計条件

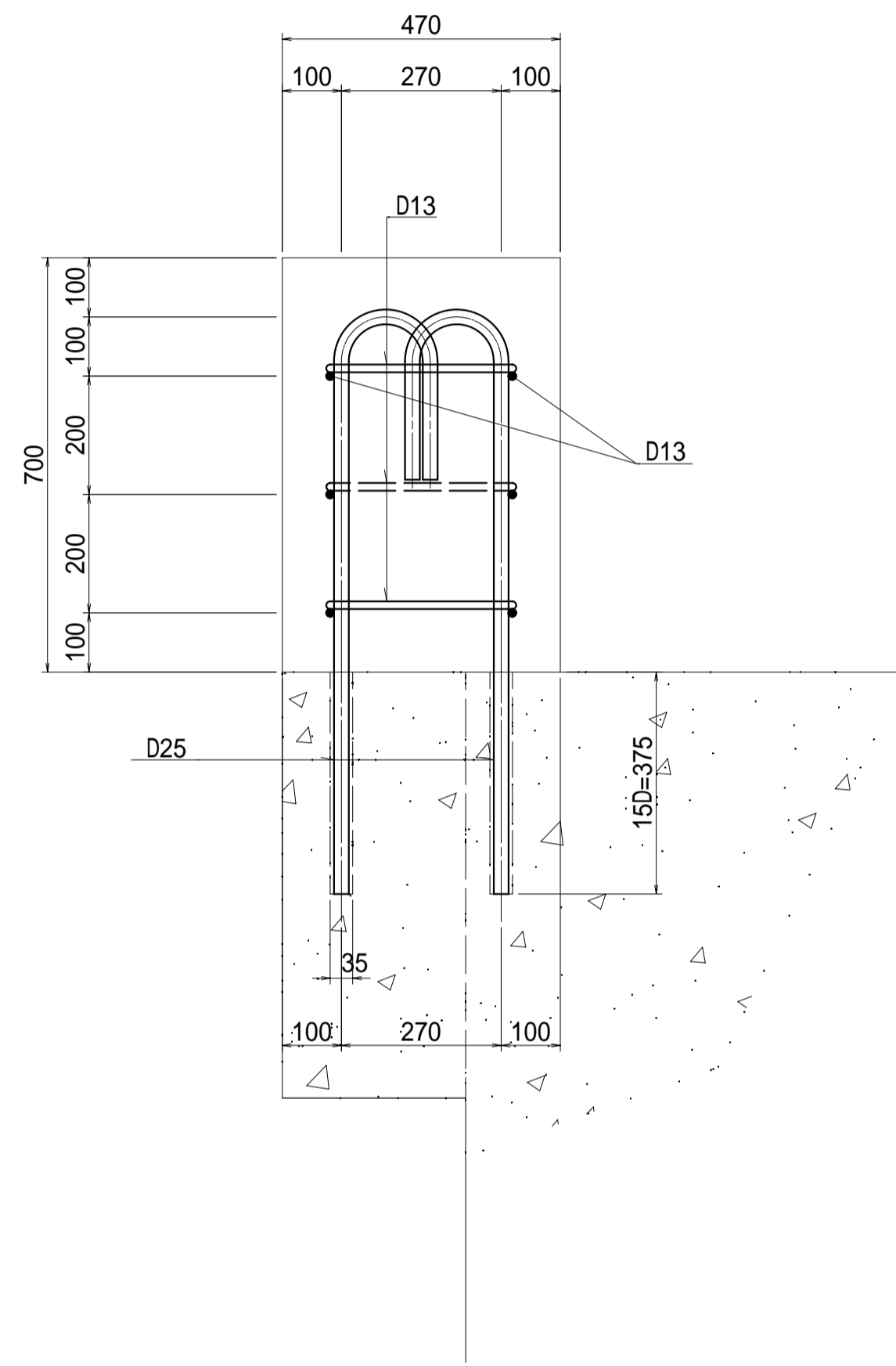
鉄筋	SD345
コンクリート	ck=24N/mm ²

[中伊豆橋]

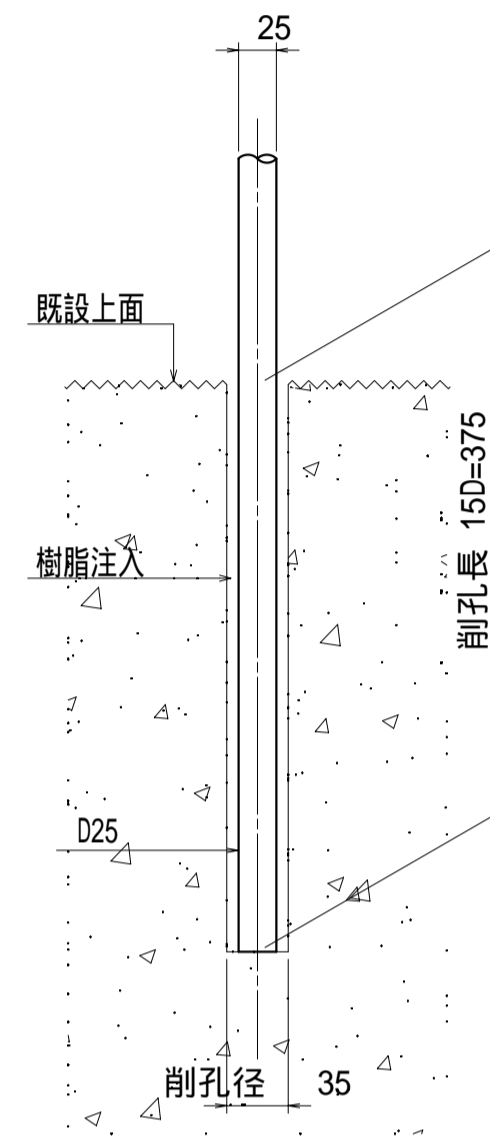
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋A1橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(2)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 12
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋A2橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(2) S = 1 : 30

アンカー工詳細図 S=1/10



アンカー鉄筋取付詳細図 S=1/5

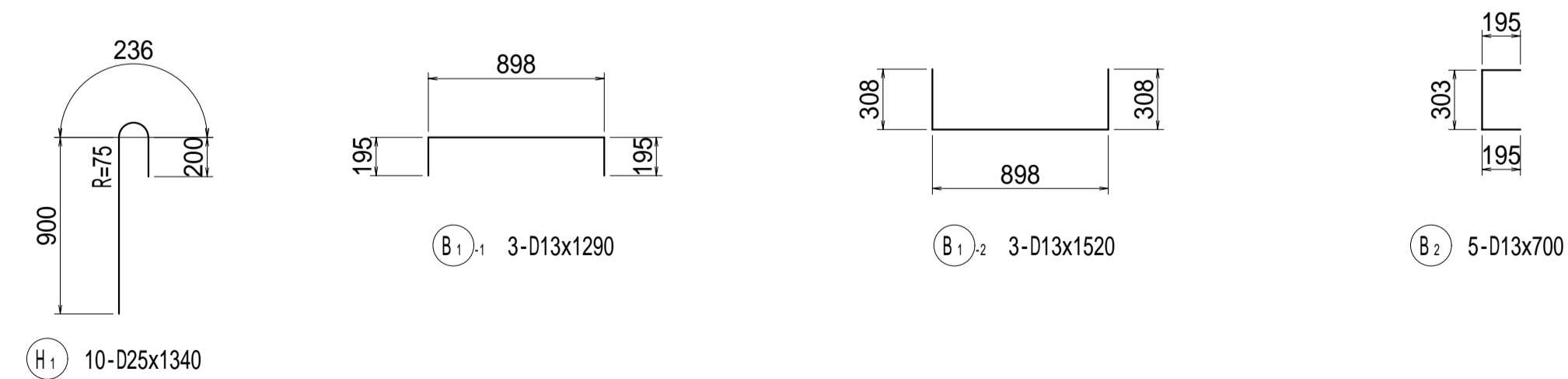


鉄筋表

RC突起 1ヶ所当り							
種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
H ₁	D25	1340	10	3.98	5.33	53	↑
						53 kg	
B ₁₋₁	D13	1290	3	0.995	1.28	4	┌
1-2	〃	1520	3	〃	1.51	5	
2	〃	700	5	〃	0.70	4	└
						13 kg	

		<1ヶ所当り>		<A2橋台1基当り>	
D25	53 kg	X 3	=	159 kg	SD345
D13	13 kg	X 3	=	39 kg	SD345
合計	66 kg	X 3	=	198 kg	SD345
削孔工	35-0.375 m 10箇所	X 3	=	30箇所	

RC突起 1ヶ所当り



1. 既設鉄筋は、鉄筋探査する事。
2. 削孔時には、既設鉄筋を傷つけないように注意する事。
3. RC突起および緩衝材の形状は現地計測を詳細に行った上で最終決定する事。
4. RC突起施工前に支承垂鉛溶射工、モルタル取壊しを行う事。
5. アンカー筋の埋込み長は15D以上とする事。
(D: アンカー筋径)

設計条件

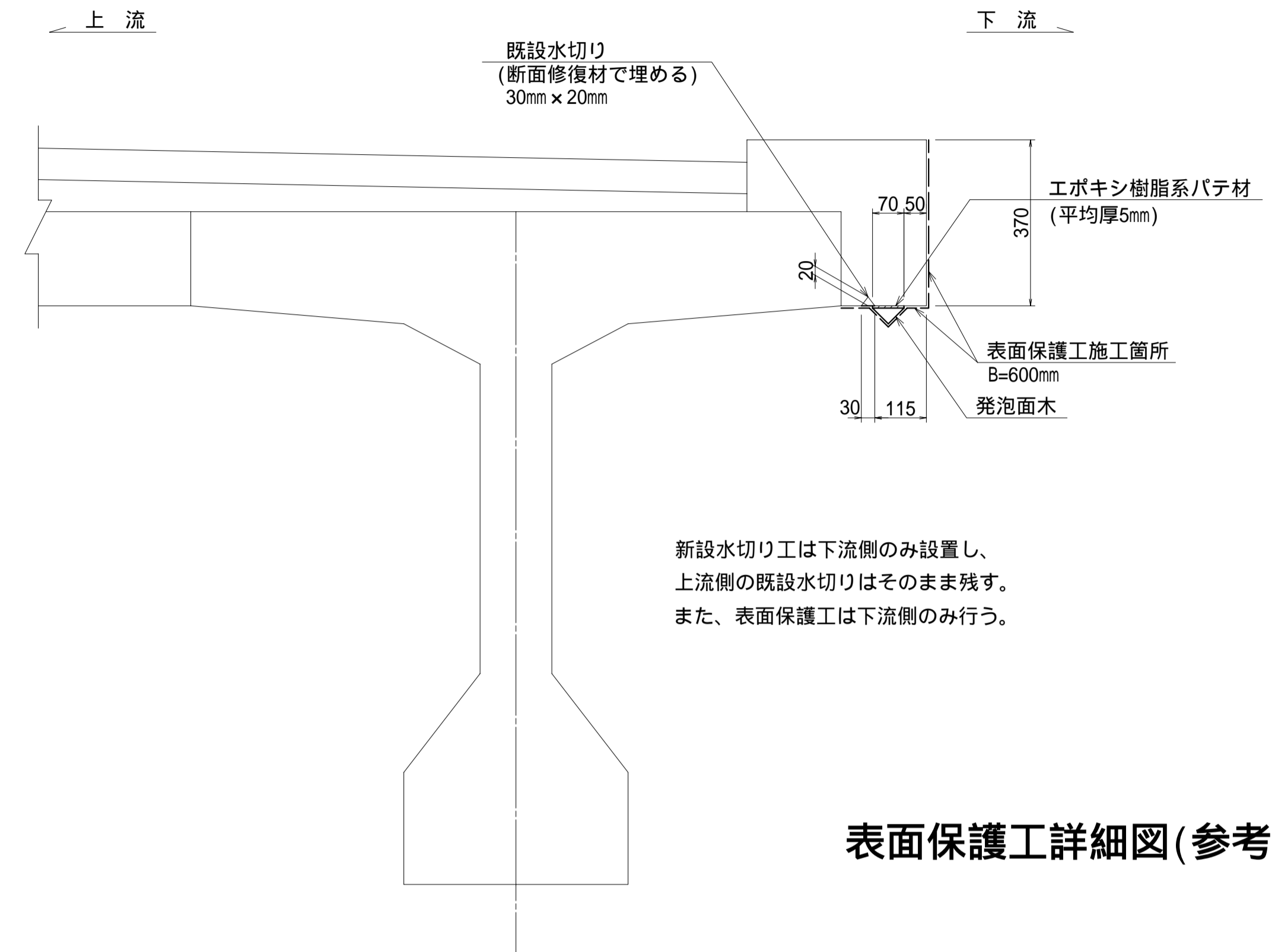
鉄筋	SD345
コンクリート	ck=24N/mm ²

[中伊豆橋]

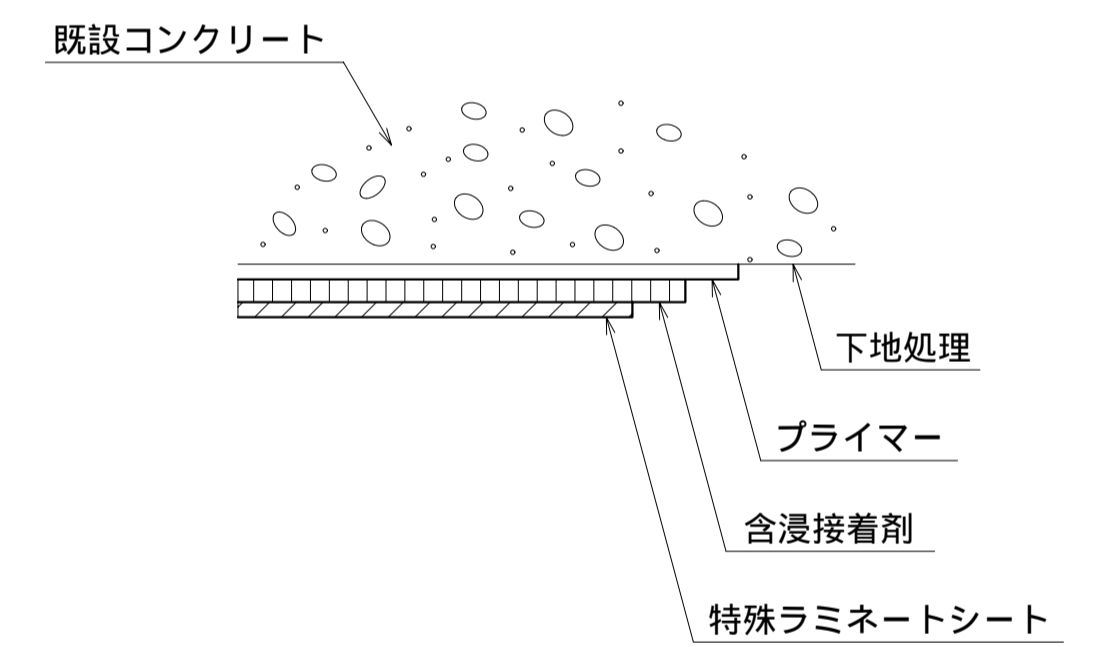
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋A2橋台 変位制限構造 (RC突起) 配筋図(2)
縮尺	図示
図面番号	22 葉中 14
測量年月日	H
設計年月日	H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋上部工補修工

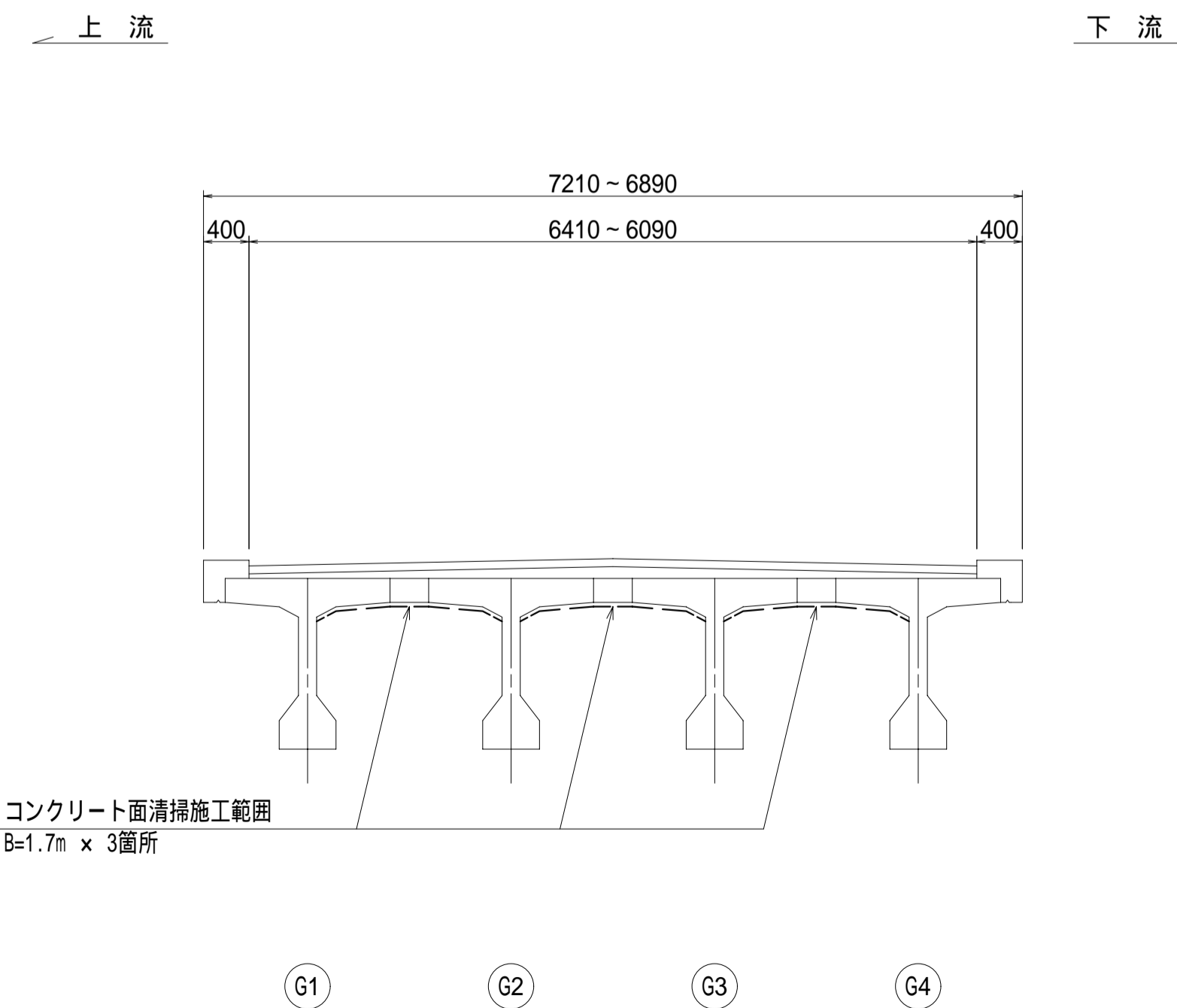
水切り工詳細図 S=1:10



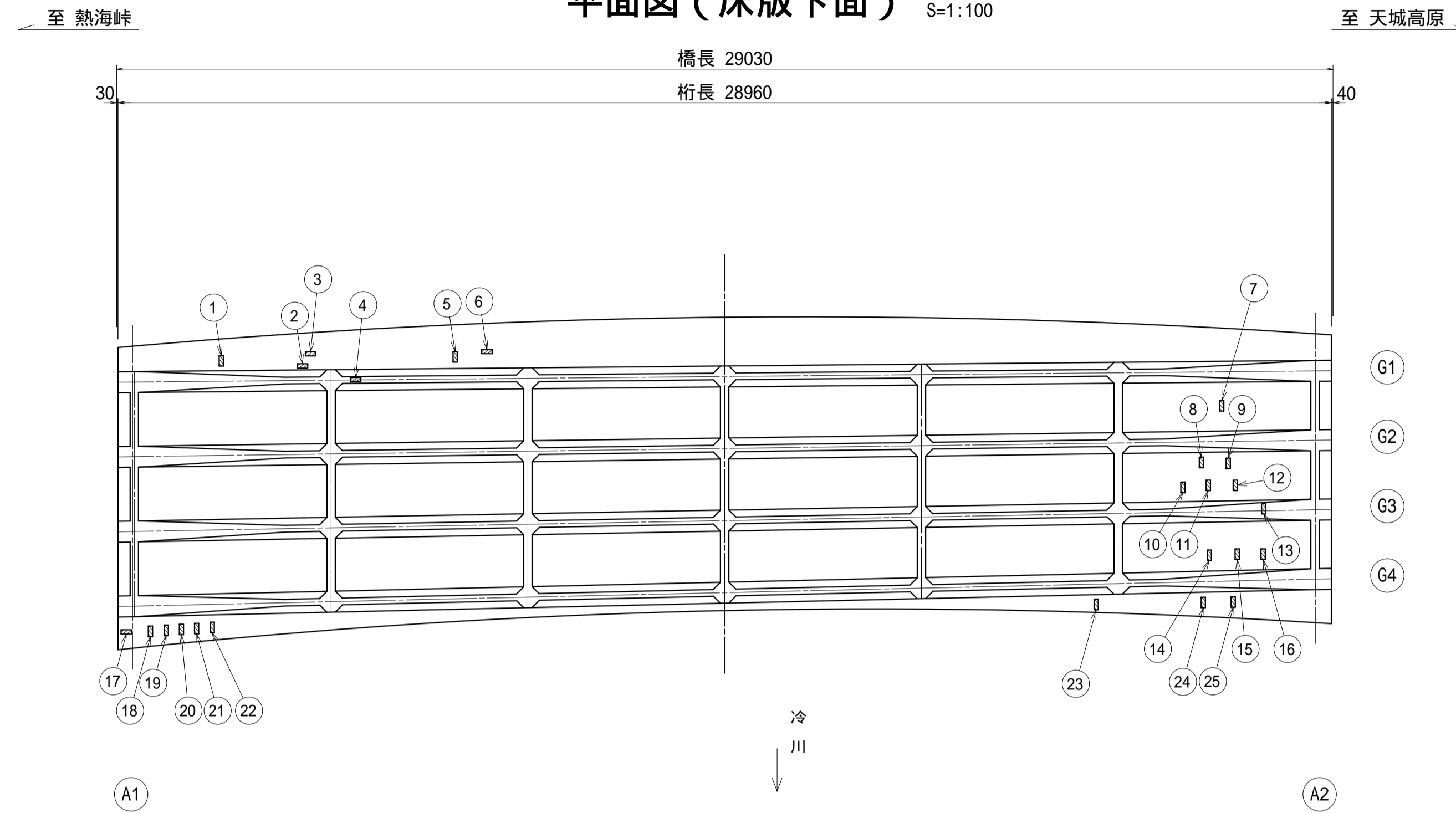
表面保護工詳細図(参考図)



コンクリート面清掃断面図 S = 1:50



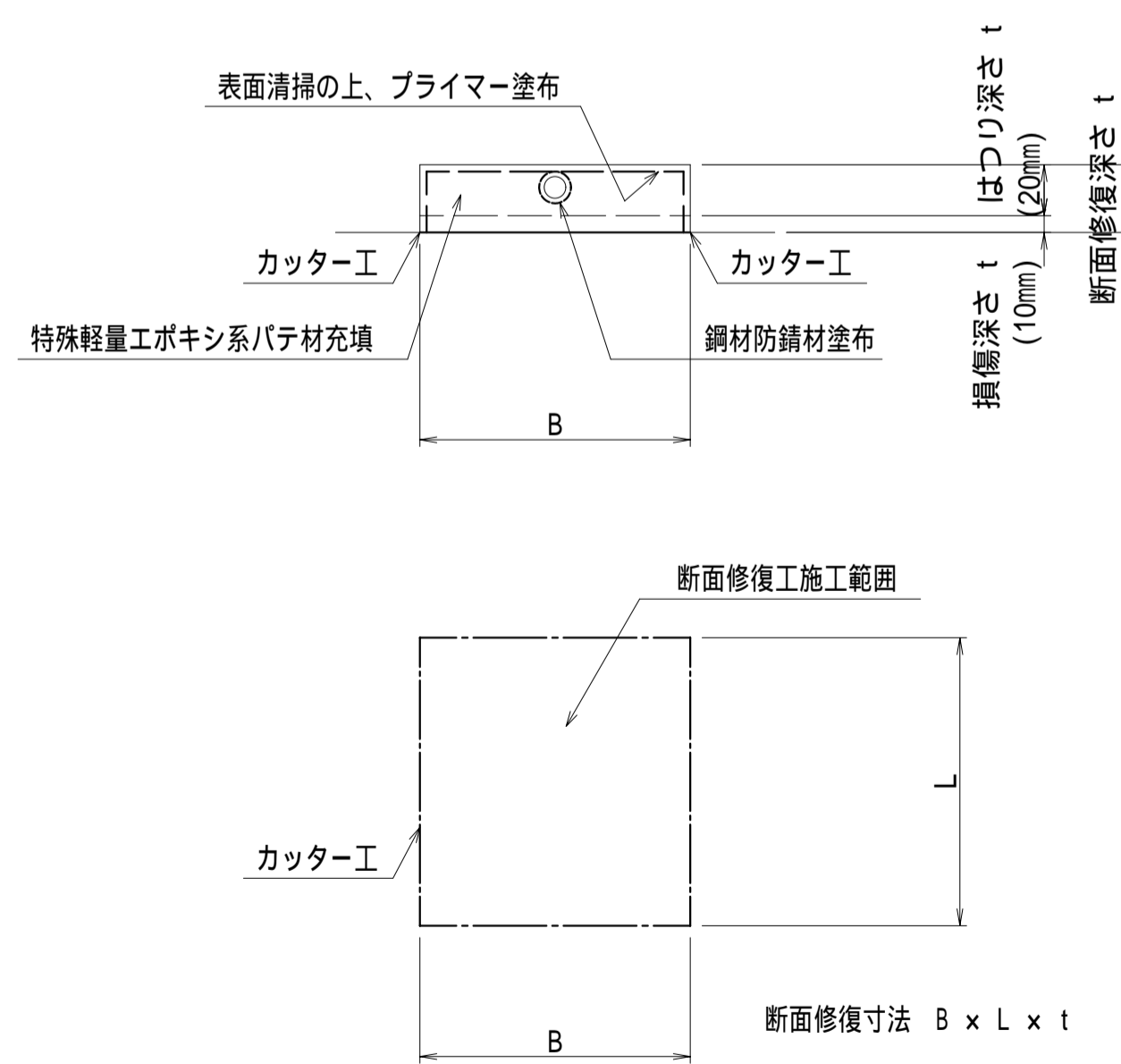
平面図(床版下面) S=1:100



断面修復寸法表

位置	損傷状況	幅B(mm)	長さL(mm)	厚さt(mm)
①	張出し床版下面 鉄筋露出	100	200	30
②	張出し床版下面 鉄筋露出	100	50	30
③	張出し床版下面 鉄筋露出	100	50	30
④	桁下面 鉄筋露出、じゃんか	100	150	30
⑤	張出し床版下面 鉄筋露出	100	50	30
⑥	張出し床版下面 鉄筋露出	100	200	30
⑦	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑧	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑨	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑩	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑪	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑫	床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑬	桁下面 鉄筋露出	100	50	30
⑭	床版下面 鉄筋露出	100	50	30
⑮	床版下面 鉄筋露出	100	50	30
⑯	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑰	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑱	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑲	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
⑳	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
㉑	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
㉒	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
㉓	張出し床版下面 鉄筋露出	100	100	30
㉔	張出し床版下面 鉄筋露出	100	50	30
㉕	張出し床版下面 鉄筋露出	100	50	30

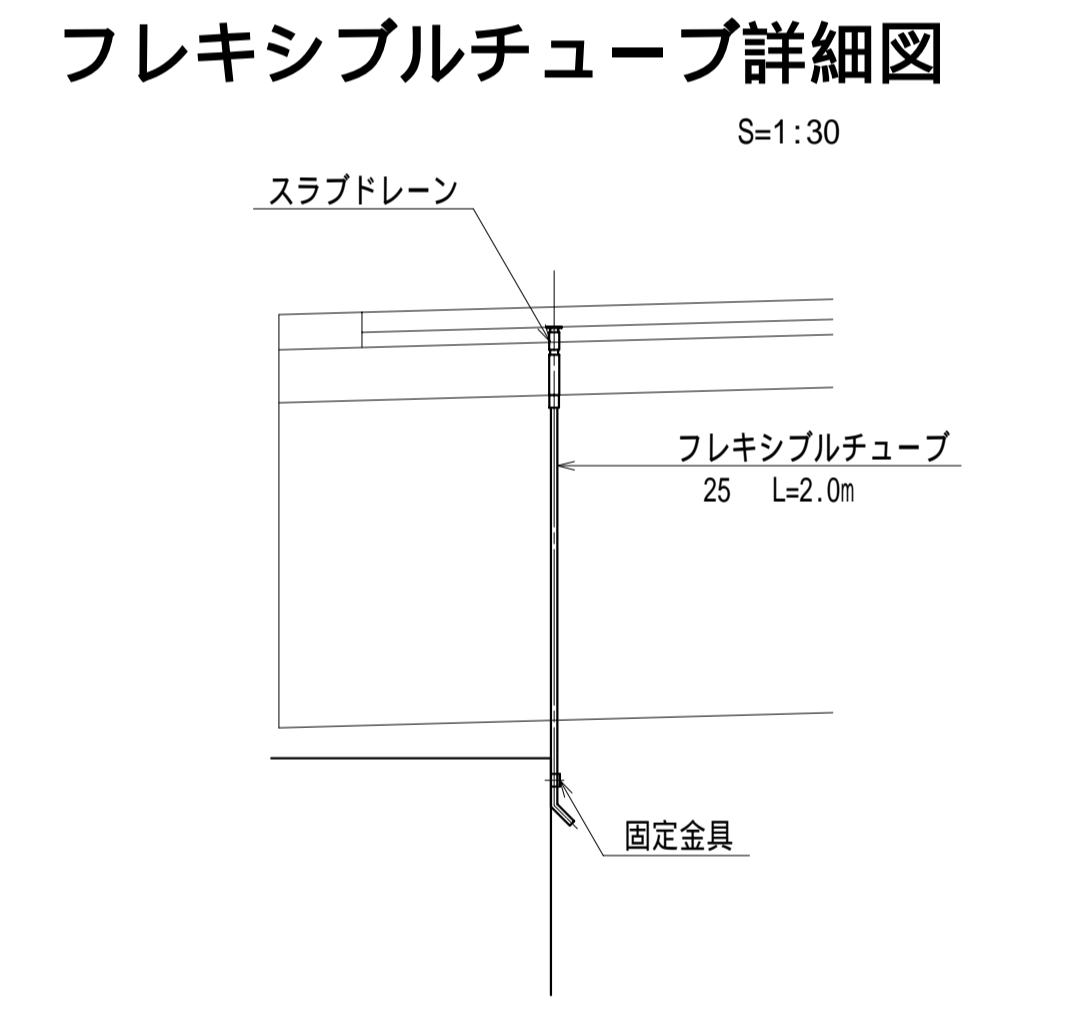
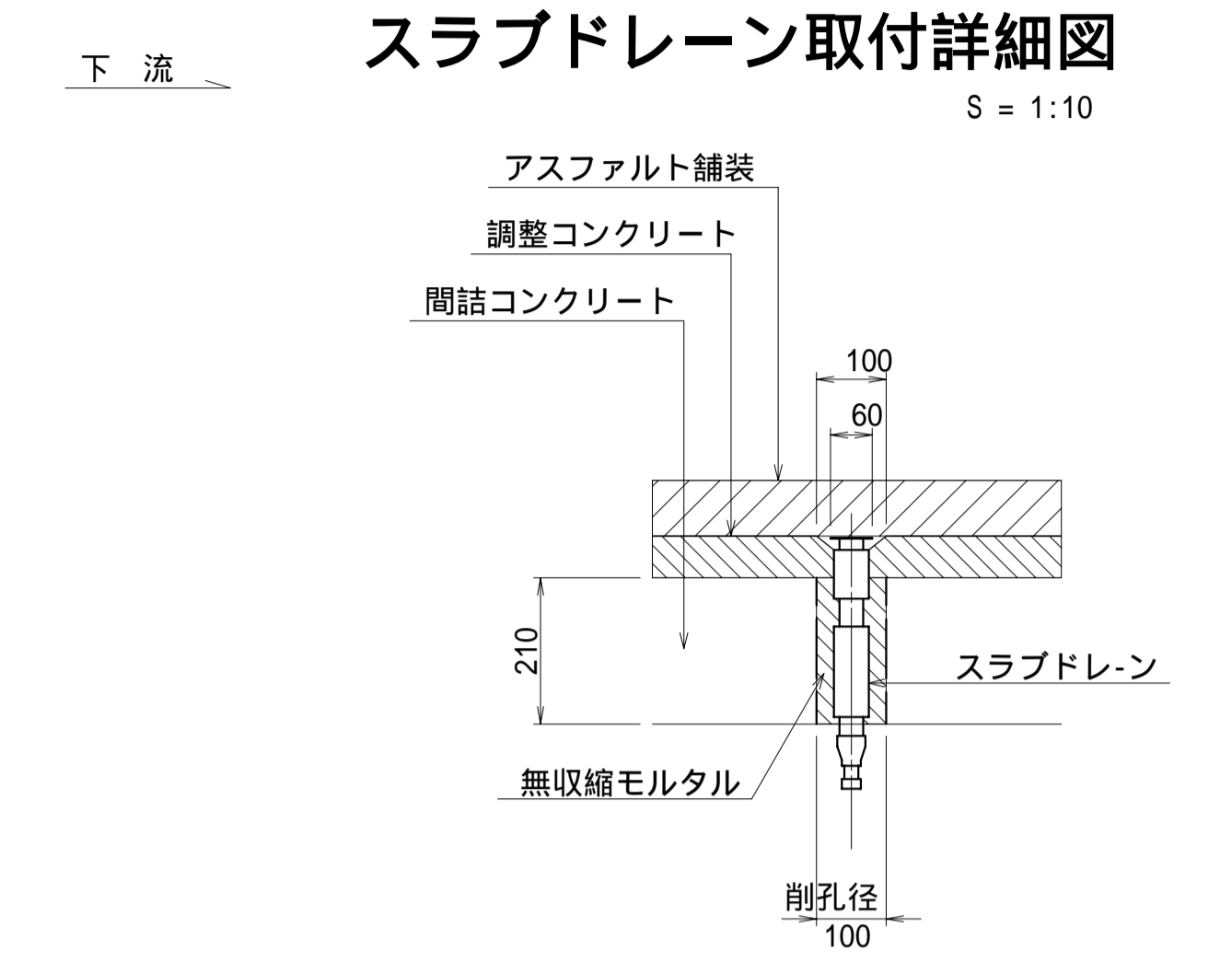
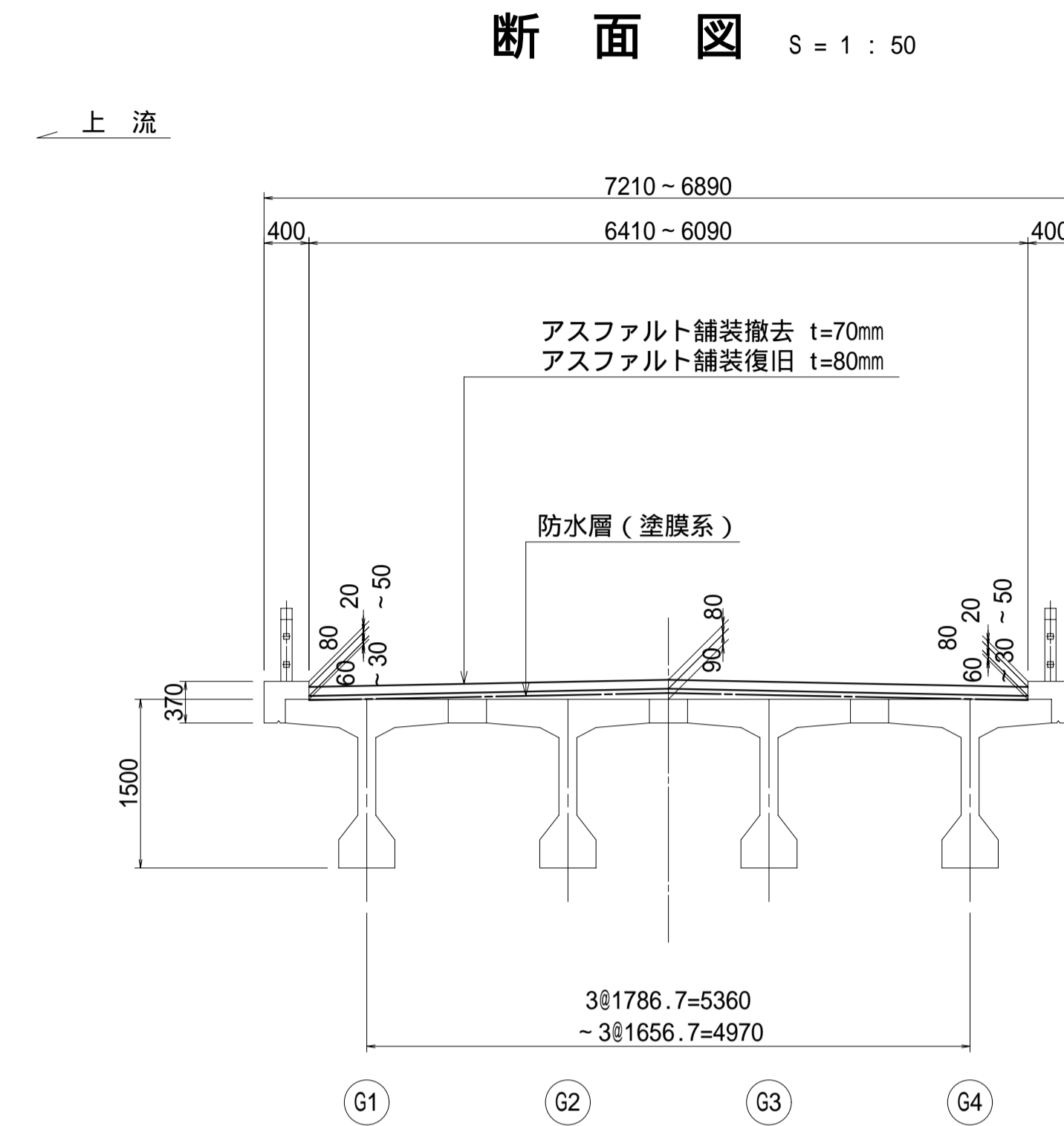
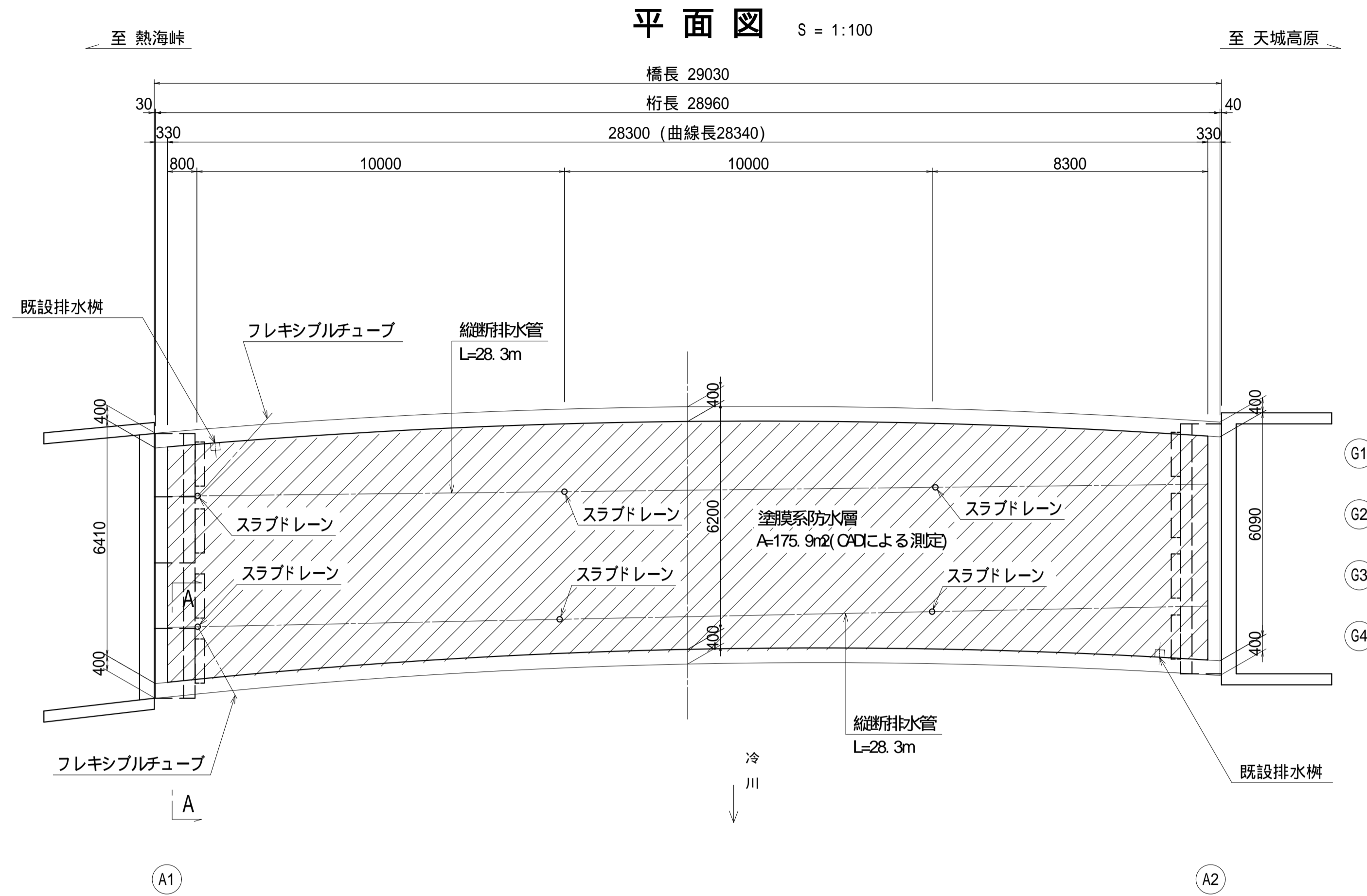
断面修復工詳細図



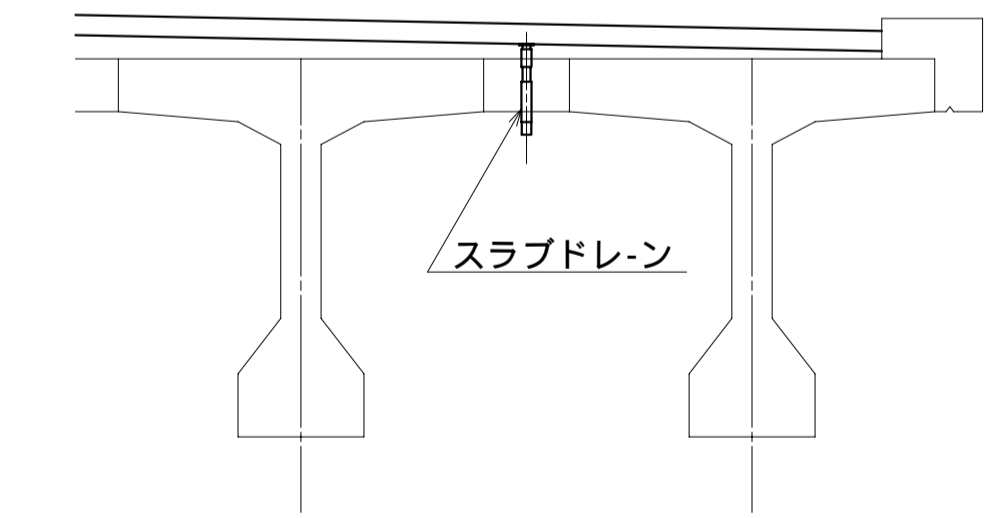
- 注) 1. コンクリートの脆弱部は、全て取り取る事。
 2. 施工に当たっては、施工箇所、施工範囲、施工深さを再度現地計測の上決定の事。
 3. 断面修復工施工範囲は、腐食の生じていない鉄筋を確認するまで行う事。その際、既設鉄筋を傷つけないよう注意すること。
 4. 断面修復工施工深さは、鉄筋に防錆材を塗布できるように、鉄筋裏側まで行う事。
 5. コンクリート面清掃は、上部工下面において汚れている範囲は全て行う。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋上部工補修工
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 15
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

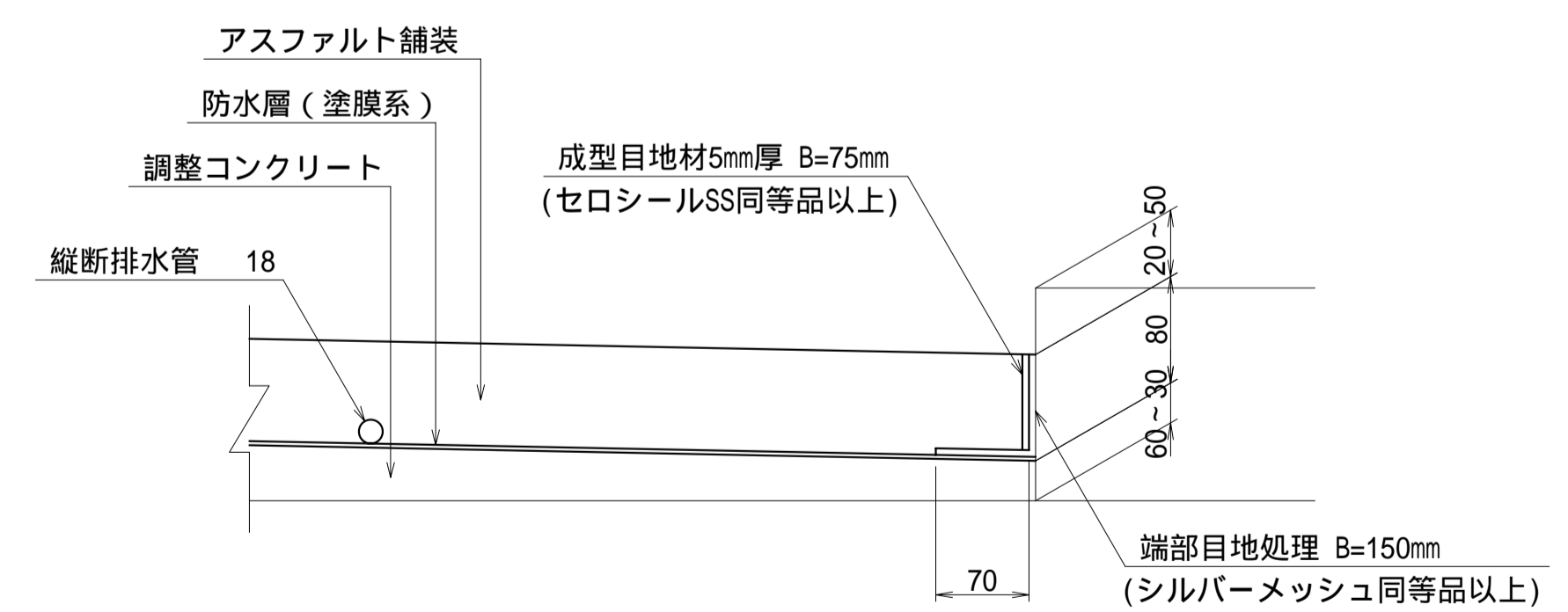
中伊豆橋橋面防水工詳細図



A - A 断面図 S = 1:30



防水工詳細図 S = 1:5

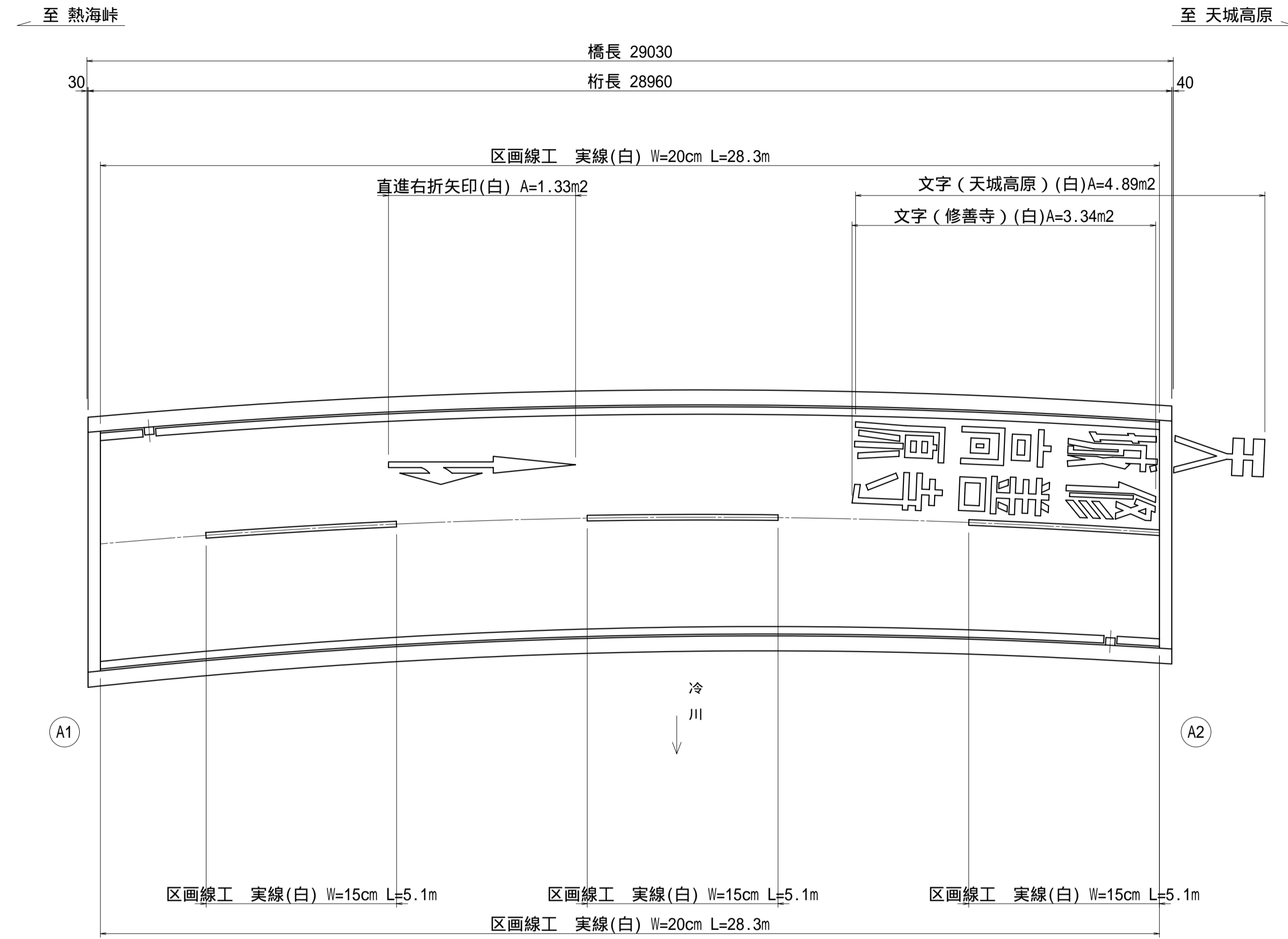


- 注記) 1. アスファルト舗装舗設後、区画線を現況復旧すること。区画線の位置は発注者と協議すること。
2. 既設鉄筋は鉄筋探査し、削孔時に既設鉄筋を傷つけないよう注意すること。
3. スラブドレーンは、再度、縦横断勾配を計測し勾配の低い側に設置すること。
4. アスファルト舗装の復旧舗設厚は、切削後、再検討すること。(舗設厚は、基本的に現況復旧とする。)

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋橋面防水工詳細図
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 16
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋区画線工詳細図(参考図)

平面図 S = 1:100

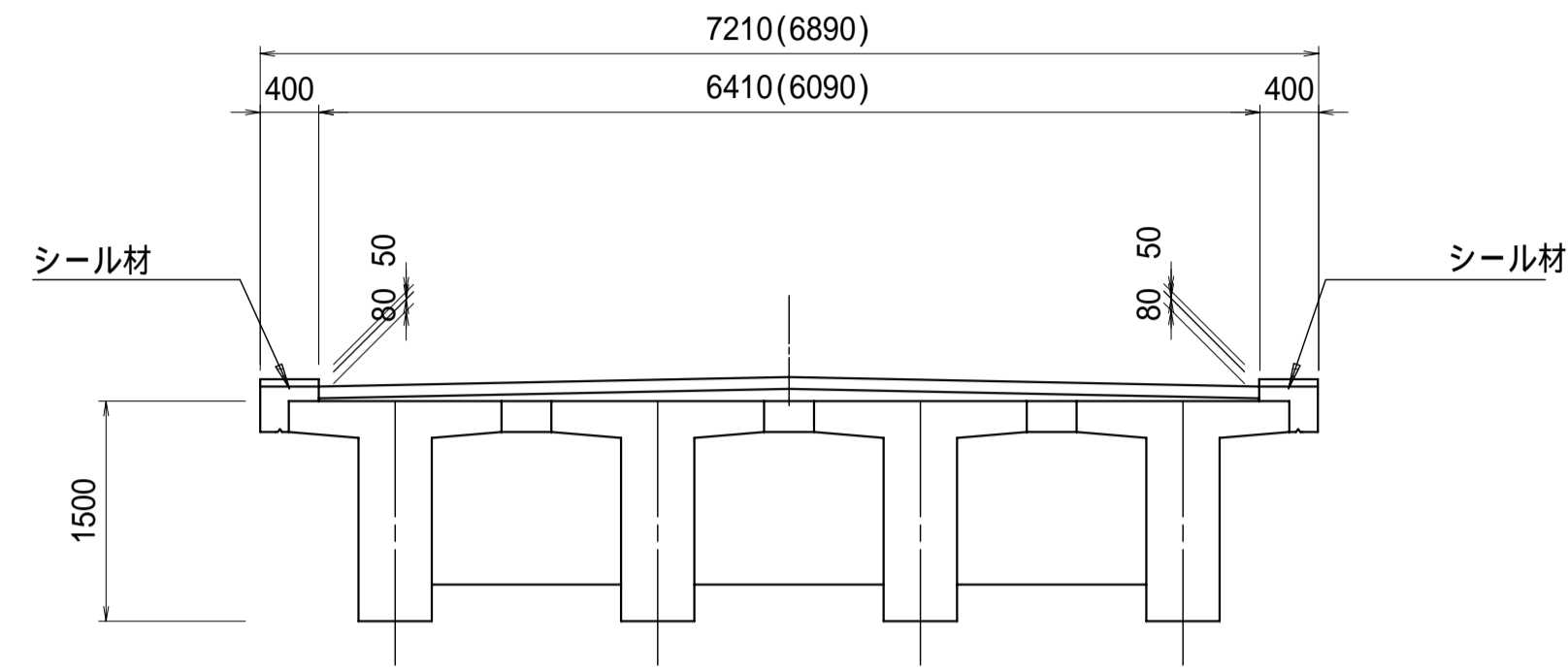


注記) 1. アスファルト舗装舗設後、区画線を現況復旧すること。
区画線の位置は発注者と協議すること。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋区画線工詳細図(参考図)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 17
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

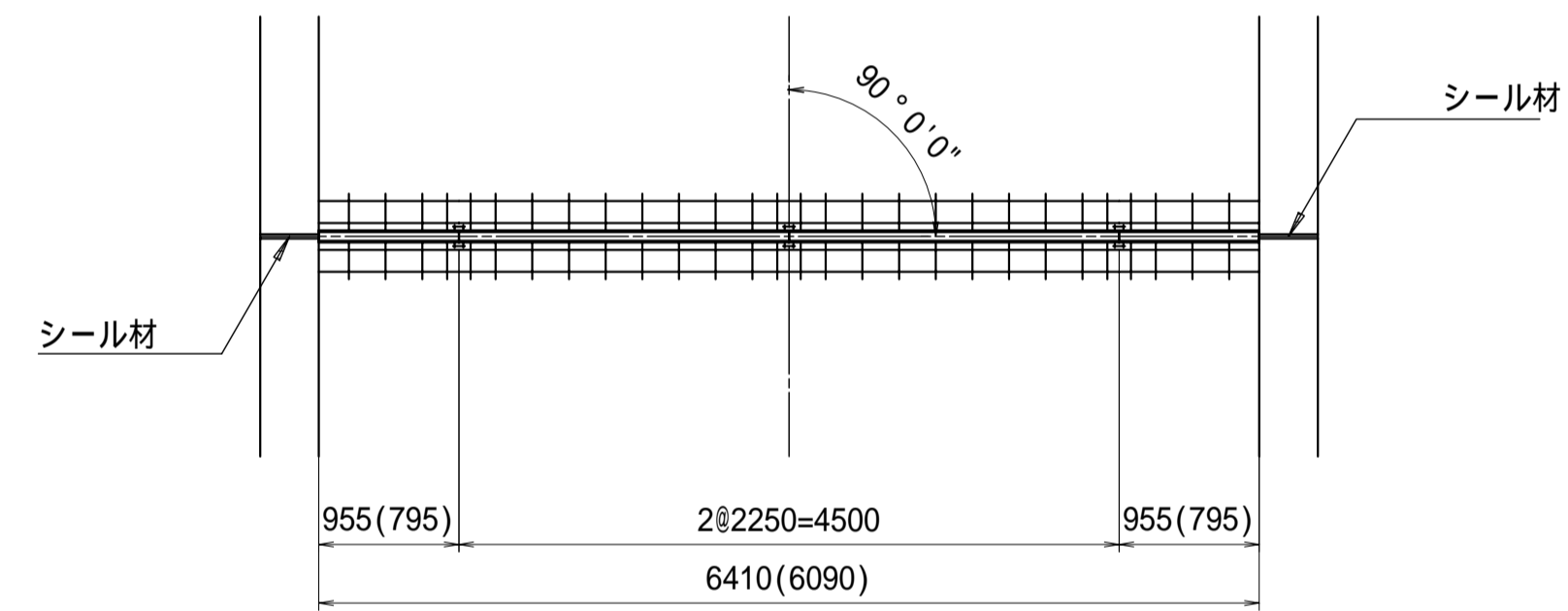
伸縮装置詳細図(参考図)

断面図 S = 1/50



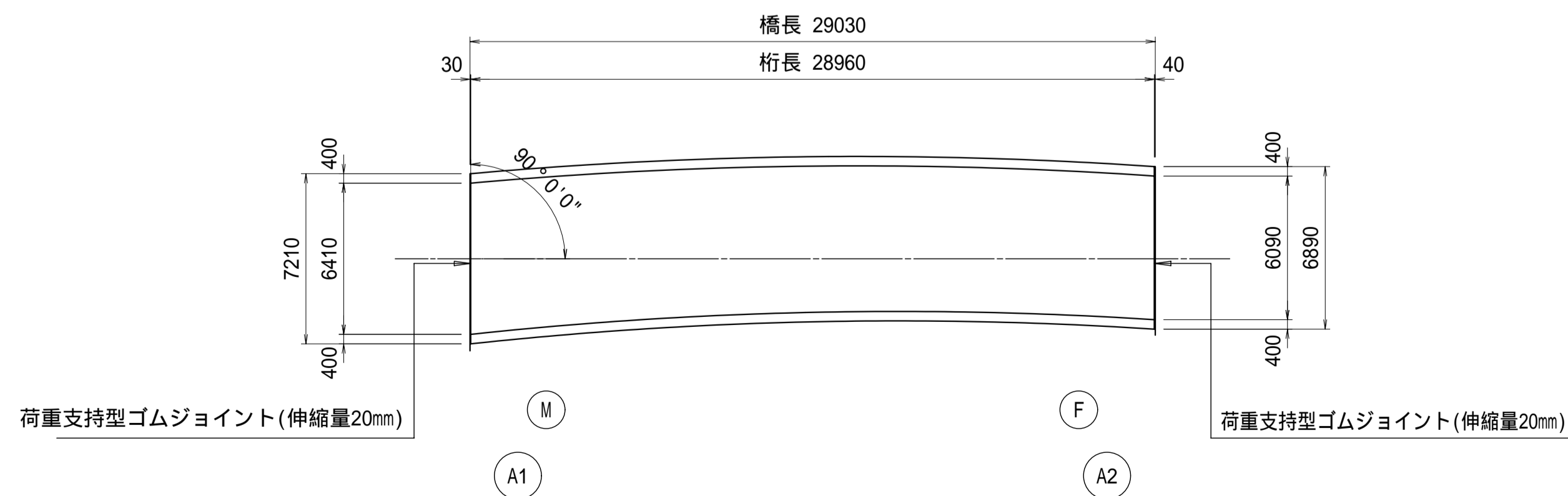
()内はA2側寸法を示す。

平面図 S = 1/50

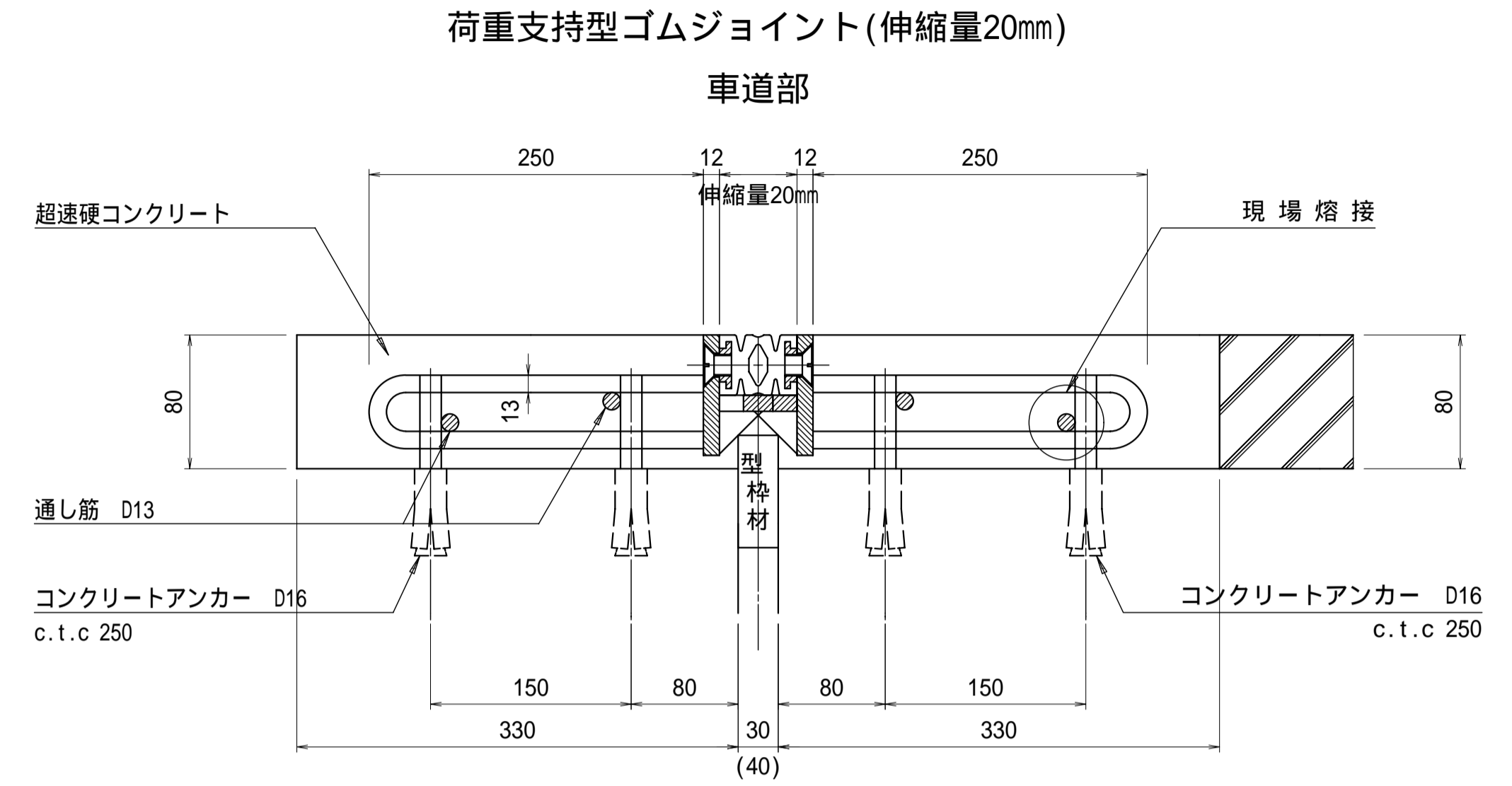


()内はA2側寸法を示す。

配置図 S = 1/200

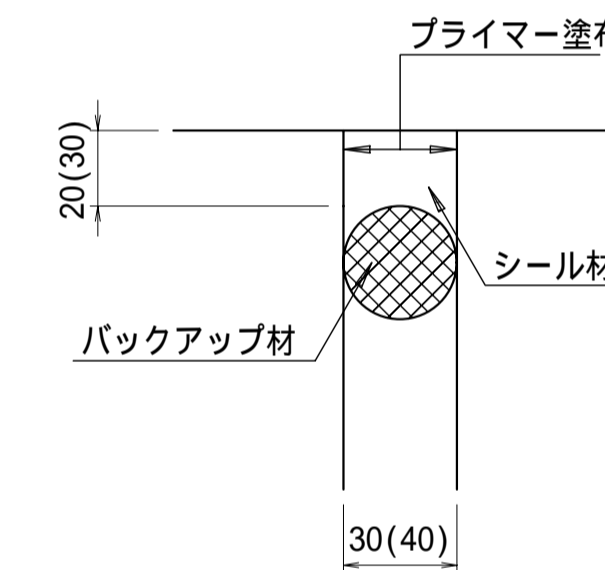


伸縮装置断面図 S = 1/4



()内はA2側寸法を示す。

シール材充填図 S = 1/2



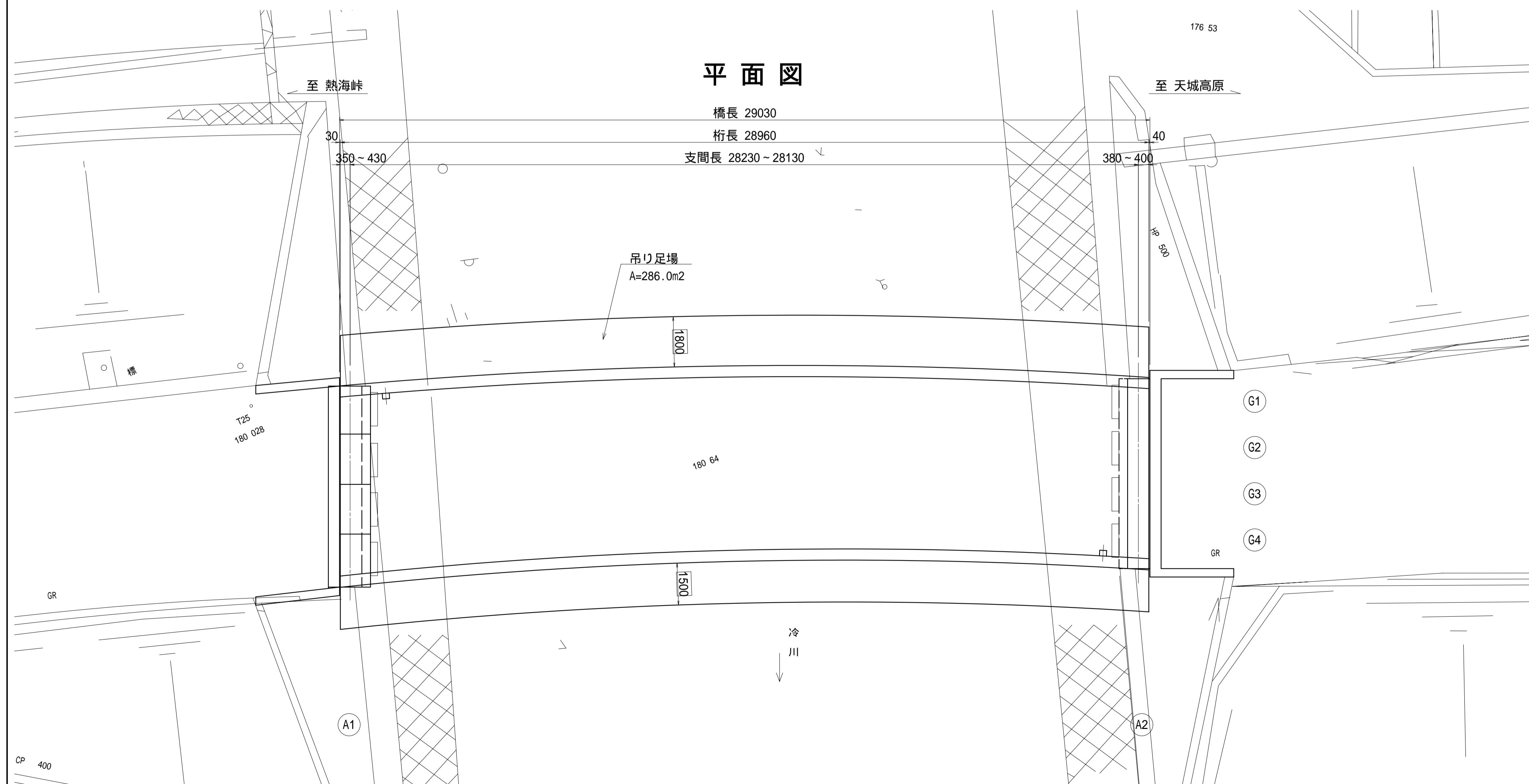
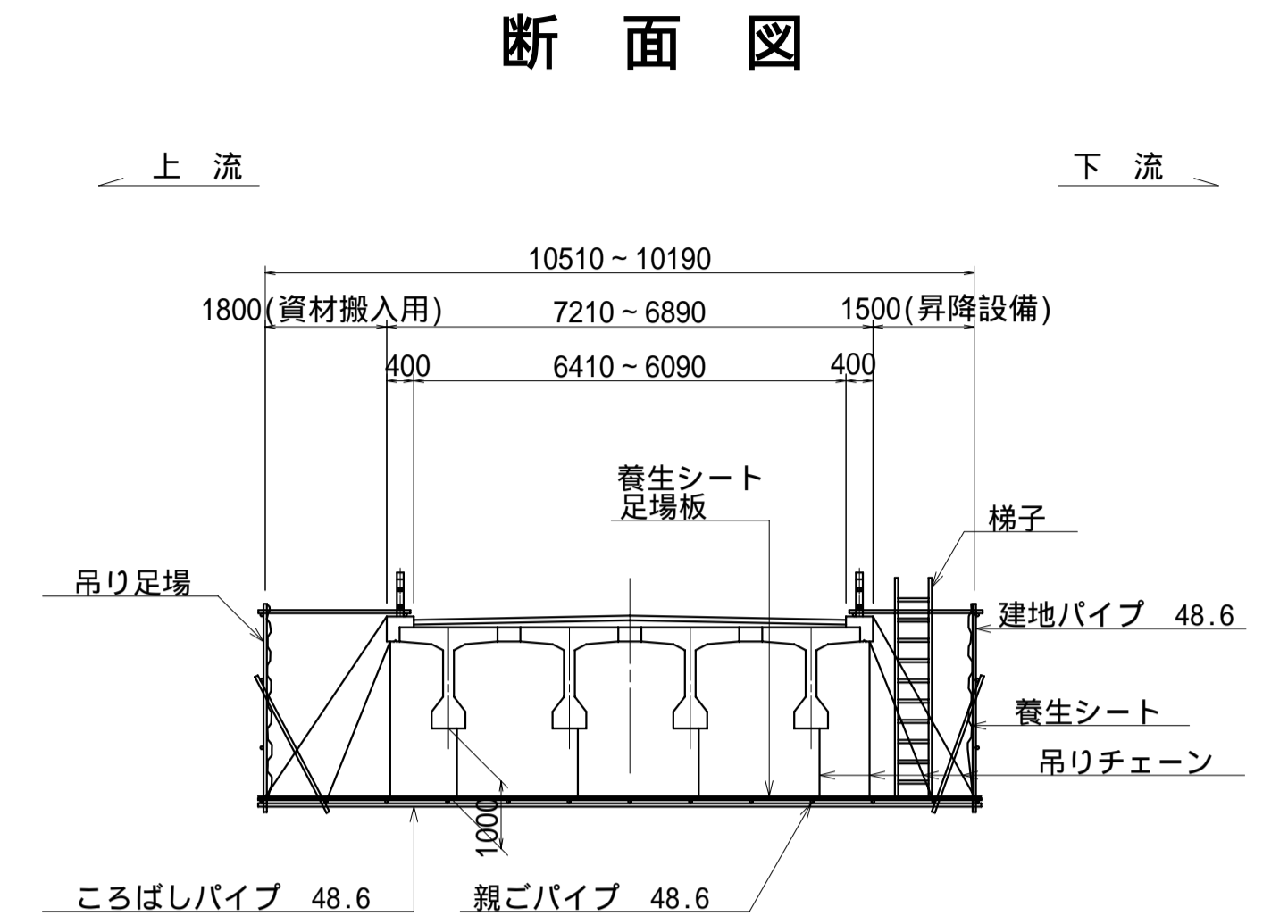
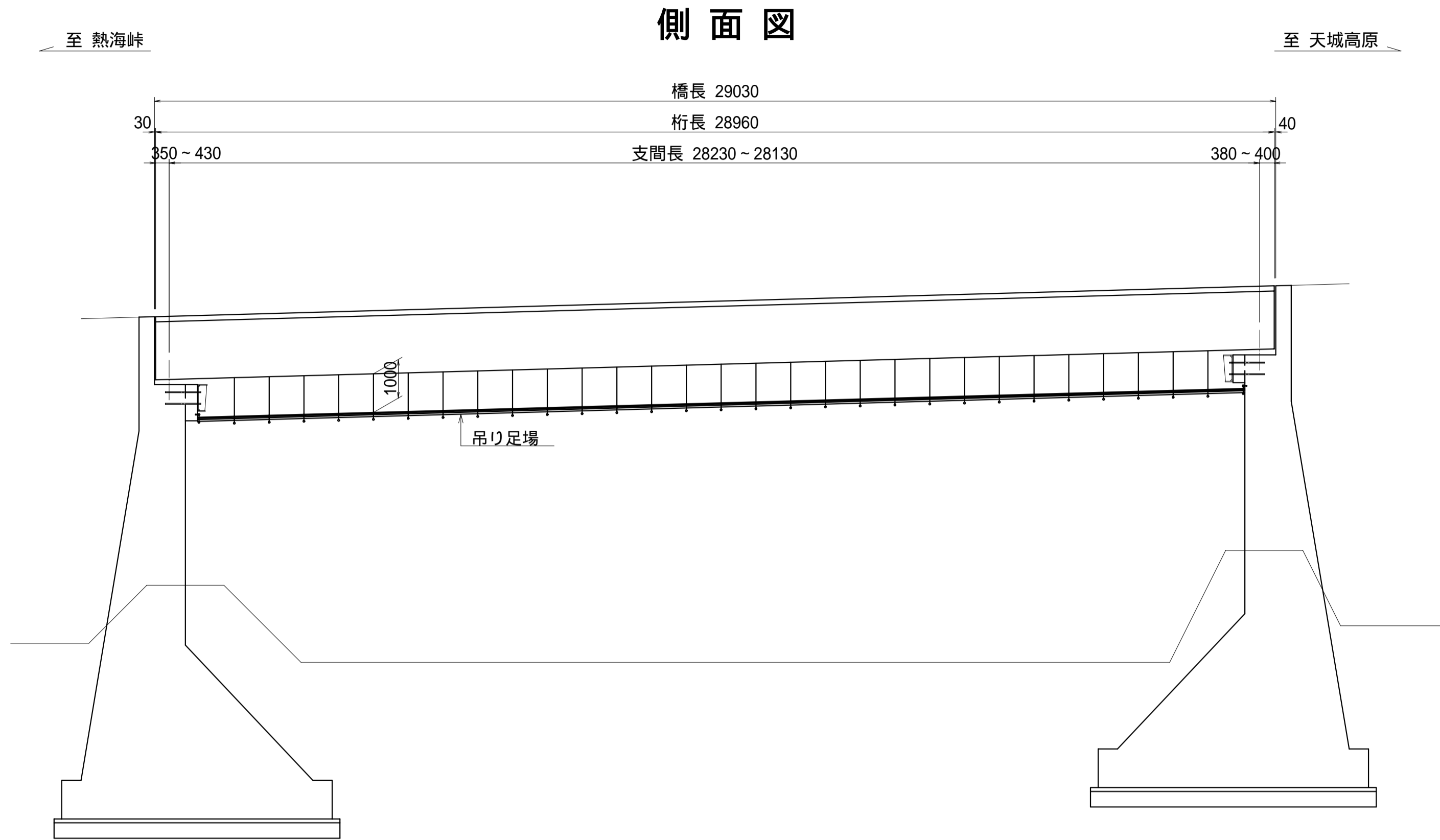
()内はA2側寸法を示す。

1. 桁下面および橋座面への漏水防止のため、既設伸縮装置を撤去し新規に荷重支持型ゴムジョイントを設置する。
2. 既設伸縮装置は路面上からは確認できない。伸縮装置の設置高および超硬コンクリートの厚さは、既設舗装伸縮装置撤去後、再検討すること。
3. 橋面防水工の端部用地処理を確実にするため、伸縮装置の取替えは、橋面防水工施工前に行うのが望ましい。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋 伸縮装置詳細図(参考図)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 18
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋足場工計画図 (参考図)

S = 1 : 100



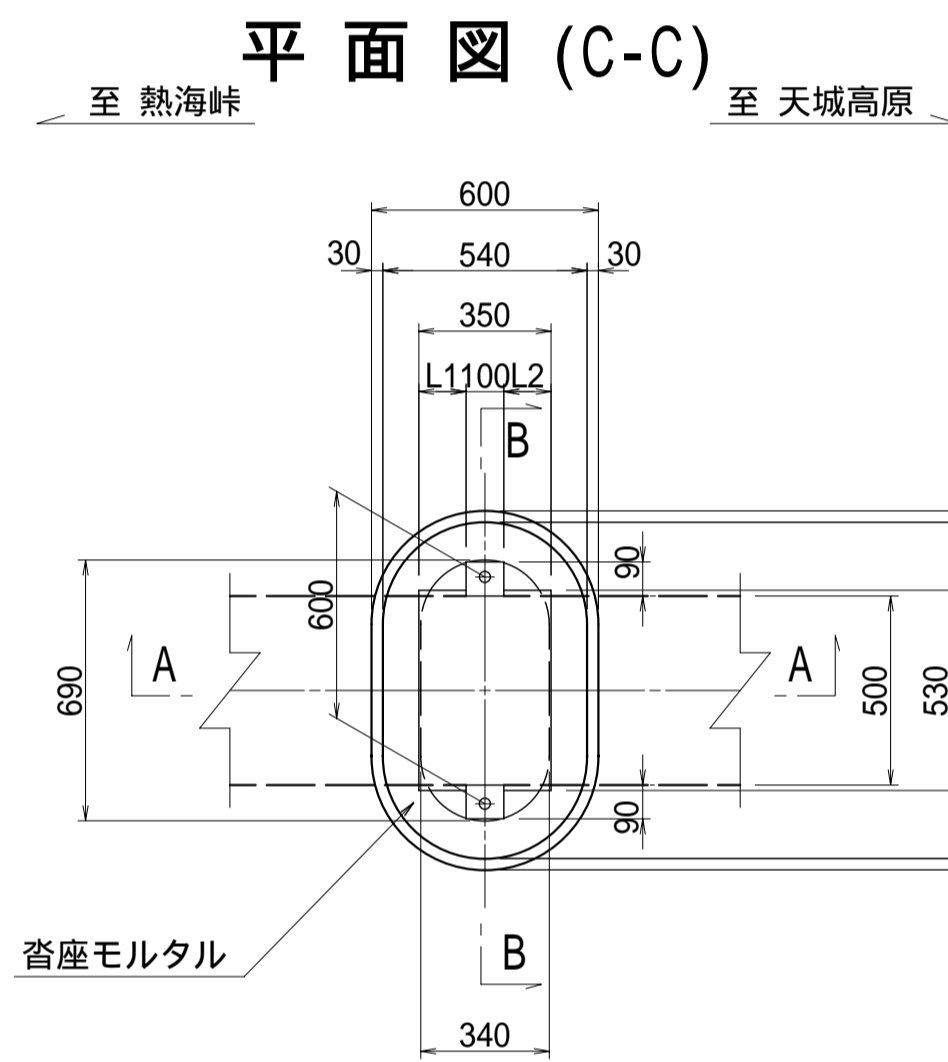
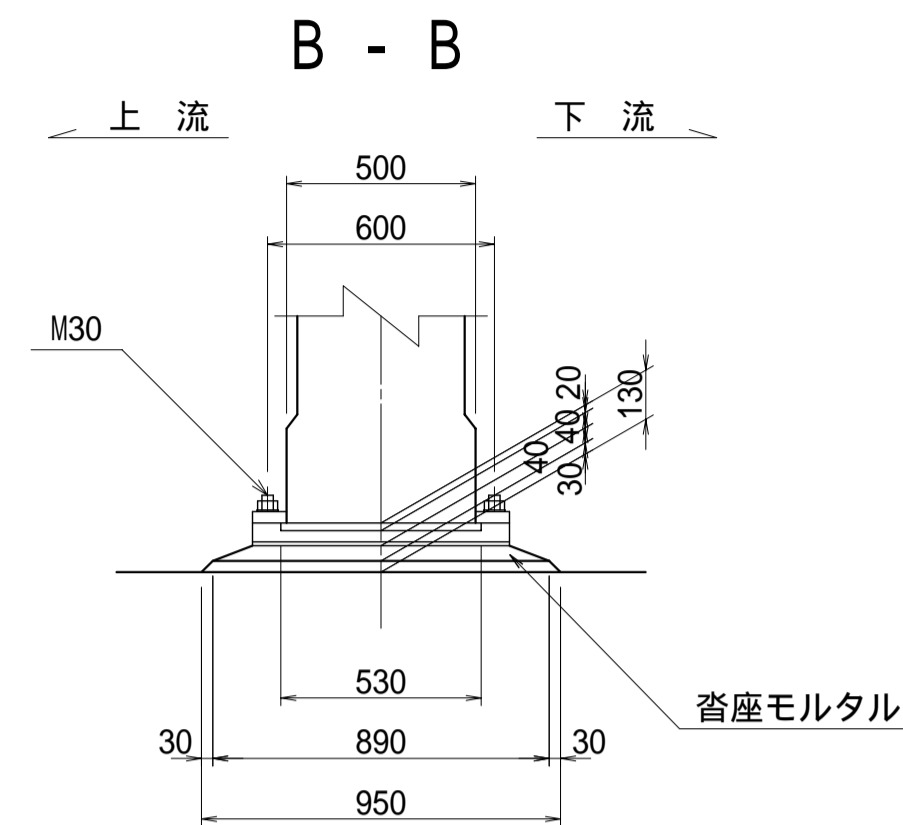
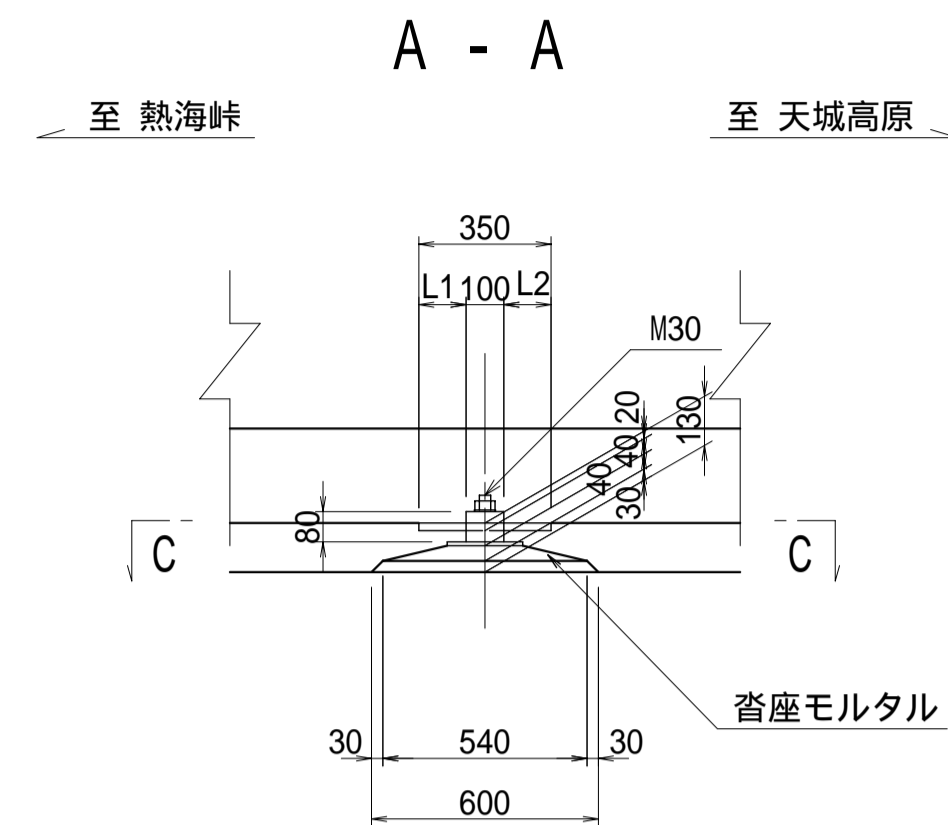
吊り足場工設置高は、施工する工種に応じて適切な高さに変更すること。

工 事 名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工 事 箇 所	伊東市宇佐美 ~ 伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋 足場工計画図 (参考図)
縮 尺 図 示	図面番号 22 葉中 19
測量年月日 H	設計年月日 H
事 務 所 名	静岡県道路公社

中伊豆橋 支承補修工

支承詳細図 S = 1 : 20

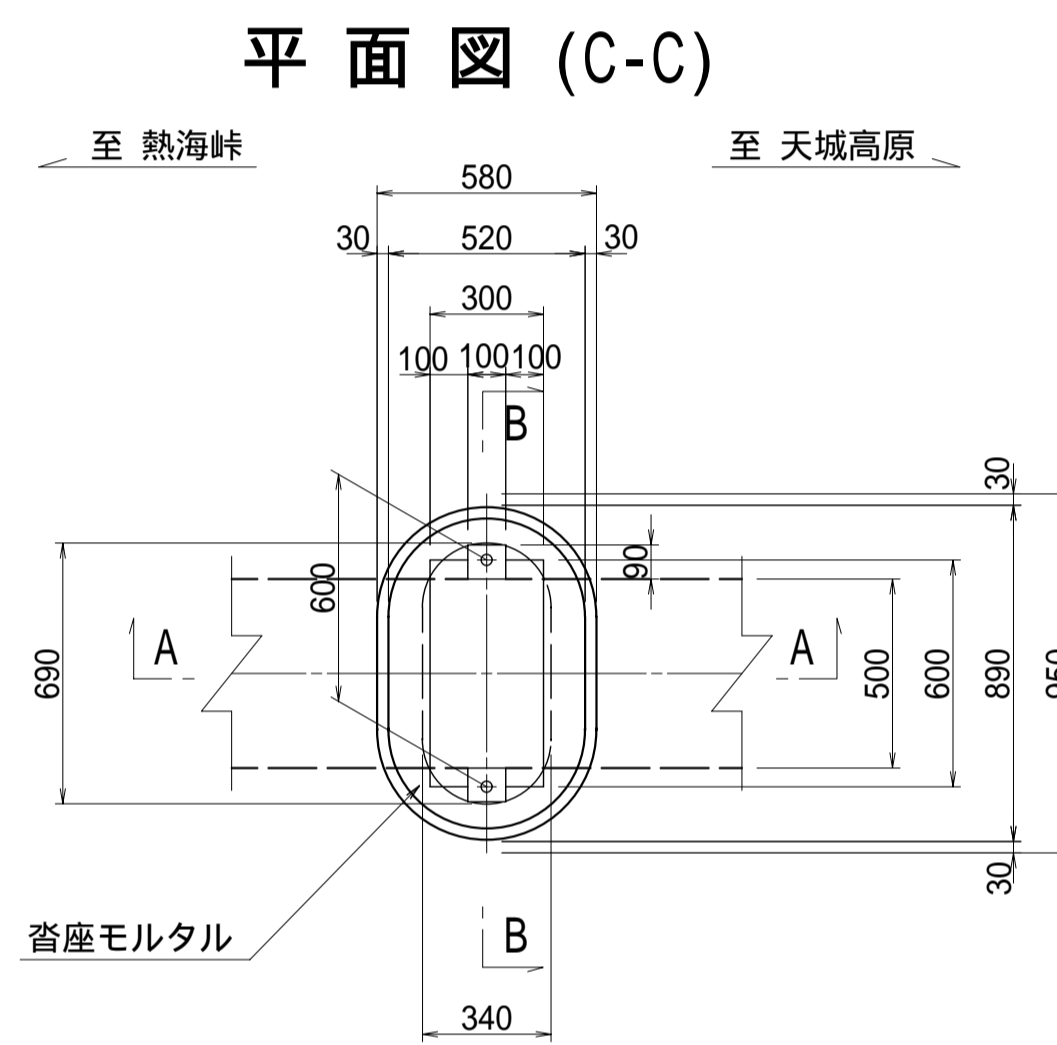
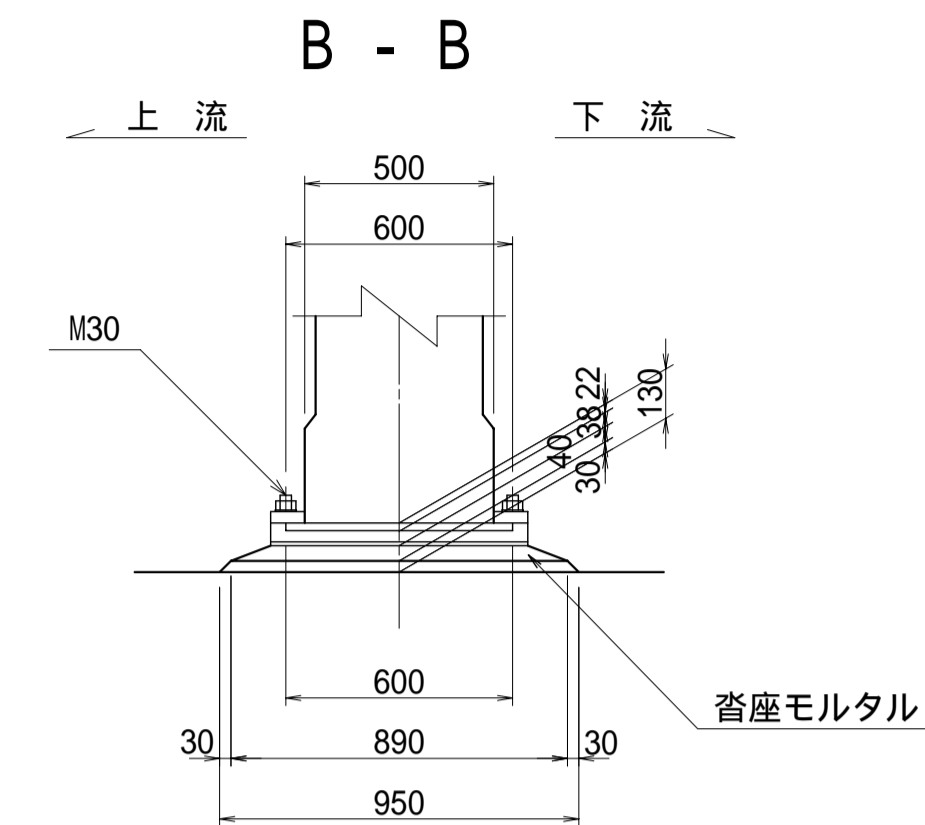
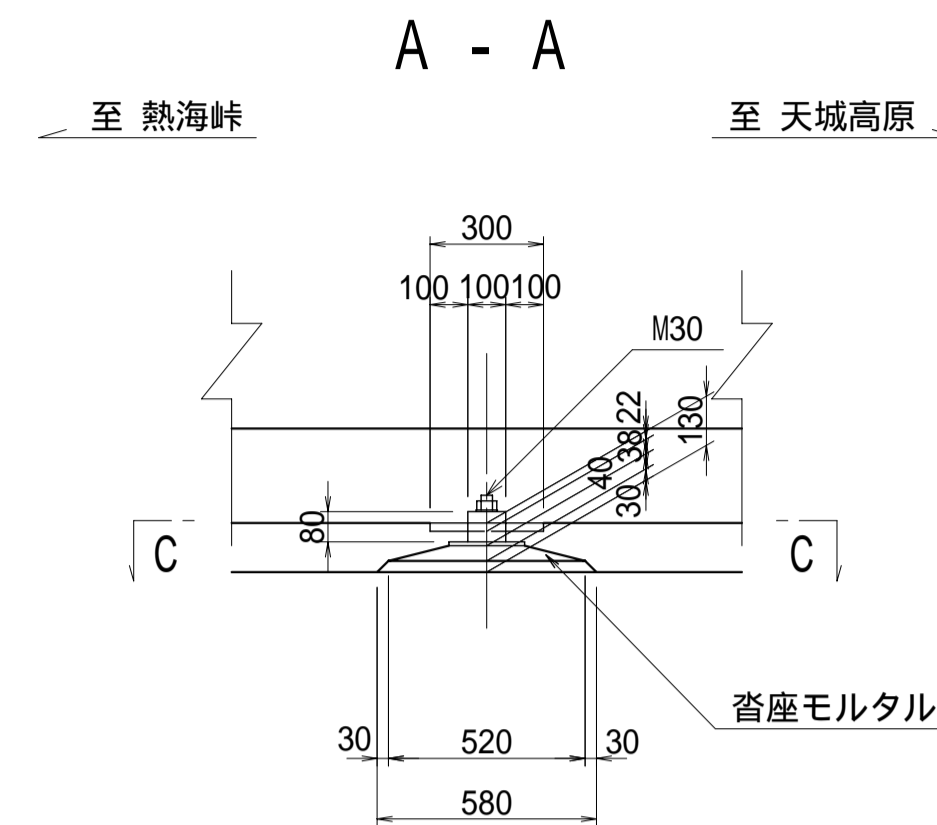
A1橋台



寸法表

位置	G1桁	G2桁	G3桁	G4桁
L1	80	150	110	110
L2	170	100	140	140

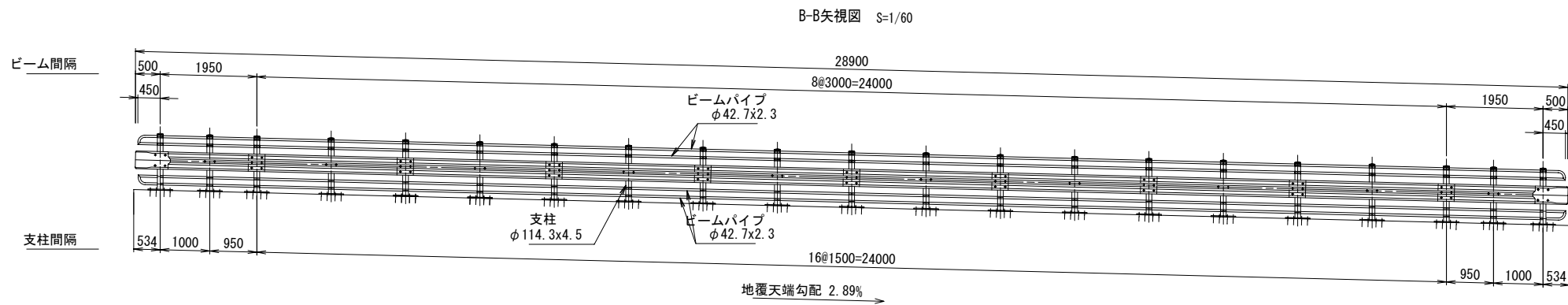
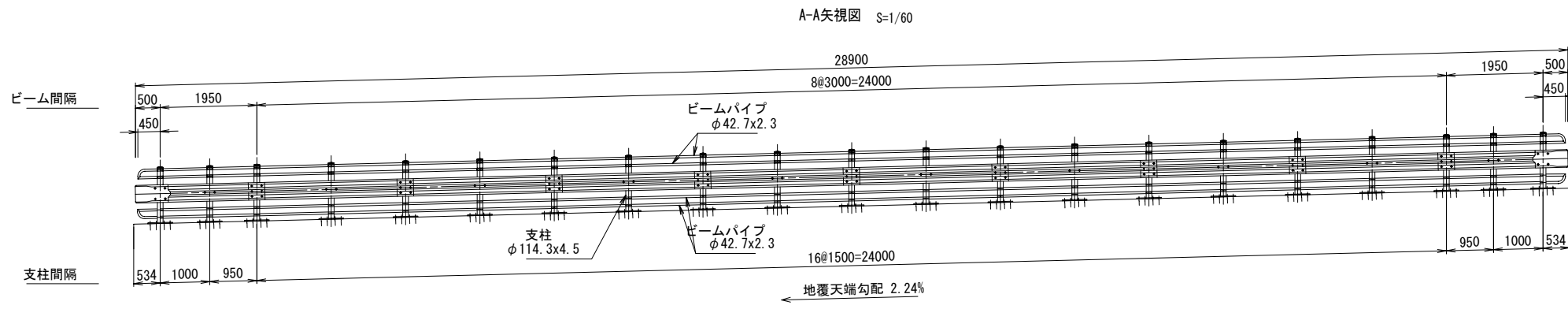
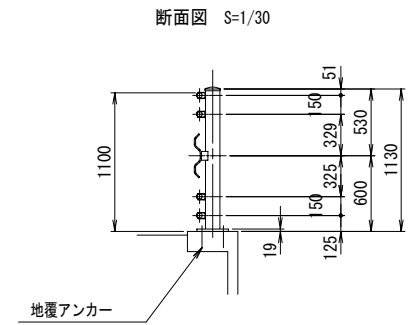
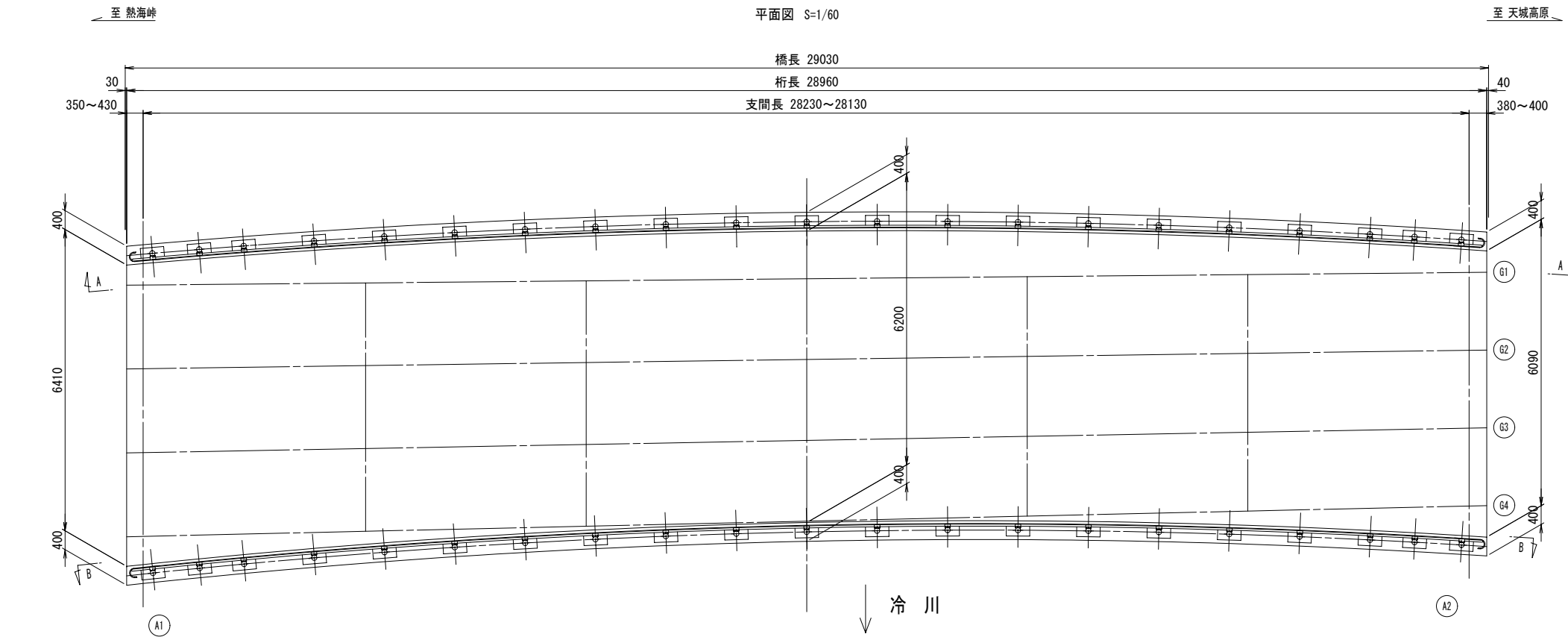
A2橋台



1. 支承は耐久性維持(延命化)を図るため、ケレンし亜鉛溶射を行う。
2. 沓座モルタルは割れが生じているため、亜鉛溶射前に撤去する。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋 支承補修工
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 20
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

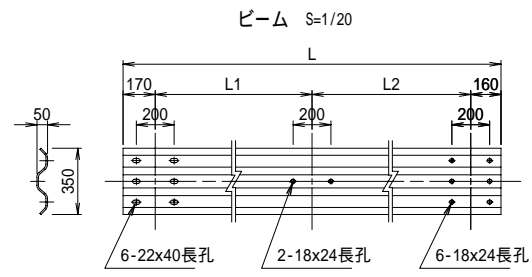
中伊豆橋ガードレール詳細図 (参考図) (1)



- ※1. 中伊豆橋の防護柵はh=1.10mのガードレール (断面図参照) に取り替える。
- 2. 既設防護柵をガードレールに取り換える前に、コア抜き等で地覆高を調査しアンカーボルトの寸法、本数およびベースプレート形状を再検討すること。
- 3. 既設防護柵の支柱は、付け根で切断する。
(地覆を切り欠き、支柱が地覆天端から見えない位置で切断する)
切り欠き部は無収縮モルタルで埋戻す。
- 4. アンカーの削孔にあたっては、既設地覆鉄筋位置を事前に探査確保し避けること。
- 5. 新設ガードレール支柱間隔は1.5m以下とする。
(新設ガードレール支柱のアンカーボルトが既設防護柵支柱位置および既設地覆鉄筋位置と干渉する場合はそれを避けて配置すること)
- 6. ベースプレートの形状および孔の位置は、アンカー削孔位置が確認してから製作するのが望ましい。

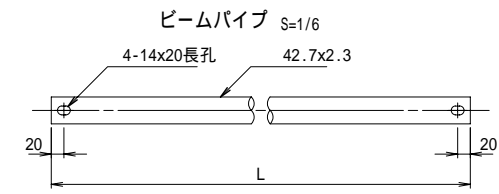
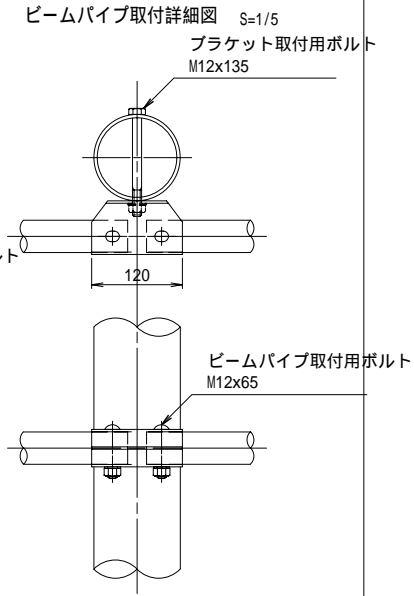
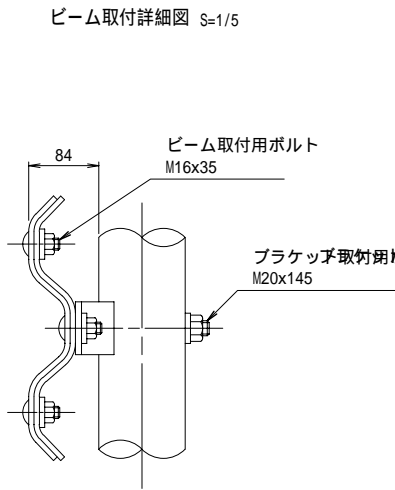
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋ガードレール詳細図 (参考図) (1)
縮尺	図示
図面番号	22 業中 21
測量年月日	H
設計年月日	H
事務所名	静岡県道路公社

中伊豆橋ガードレール詳細図(参考図)(2)



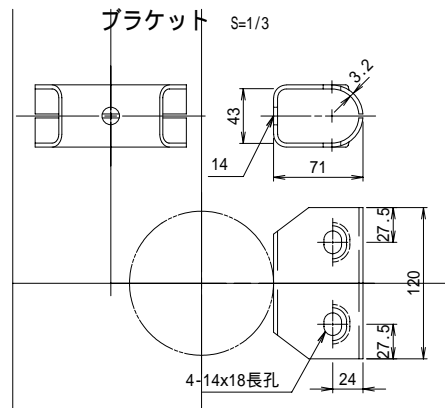
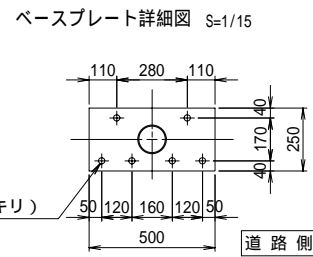
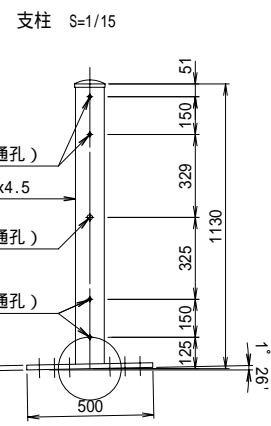
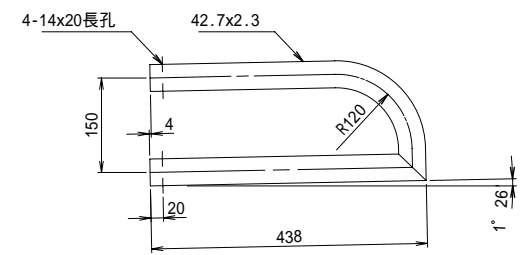
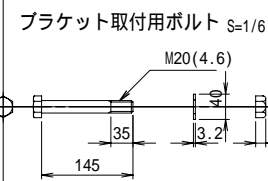
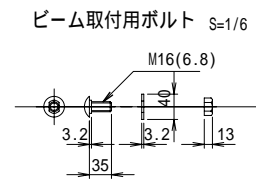
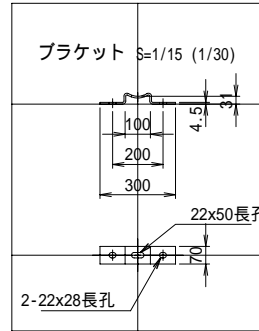
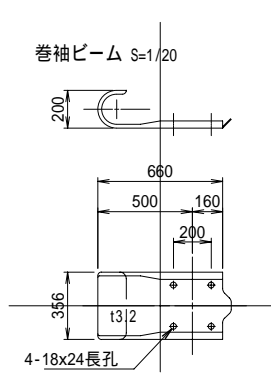
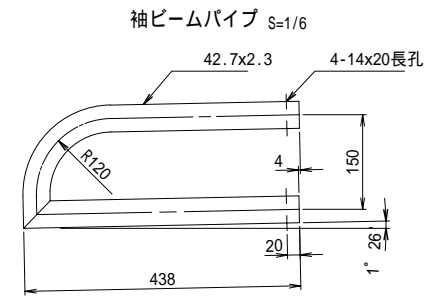
ビーム寸法表

L	L1	L2
3330	1500	1500
2280	1000	950
2280	950	1000

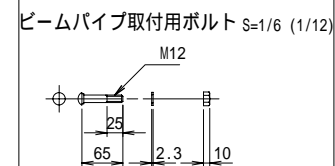
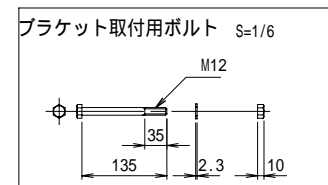
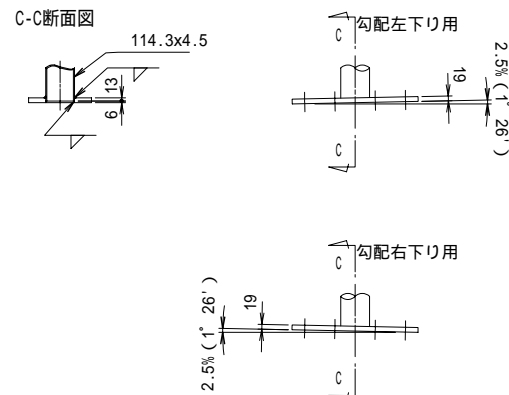
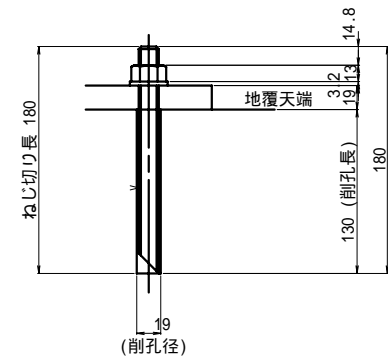


ビームパイプ寸法表

支柱間隔	L
1500	1475
1000	975
950	925



地覆アンカー詳細図 S=1/3



接着系アンカーボルトカプセル(D16用)
アンカーボルト 16x180(SUS 全ねじボルト 強度区分4.6)
六角ナット 1種 M16(1W) (SUS)

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊東市冷川 地内
図面の種類	中伊豆橋ガードレール詳細図 (参考図)(2)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 22
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社